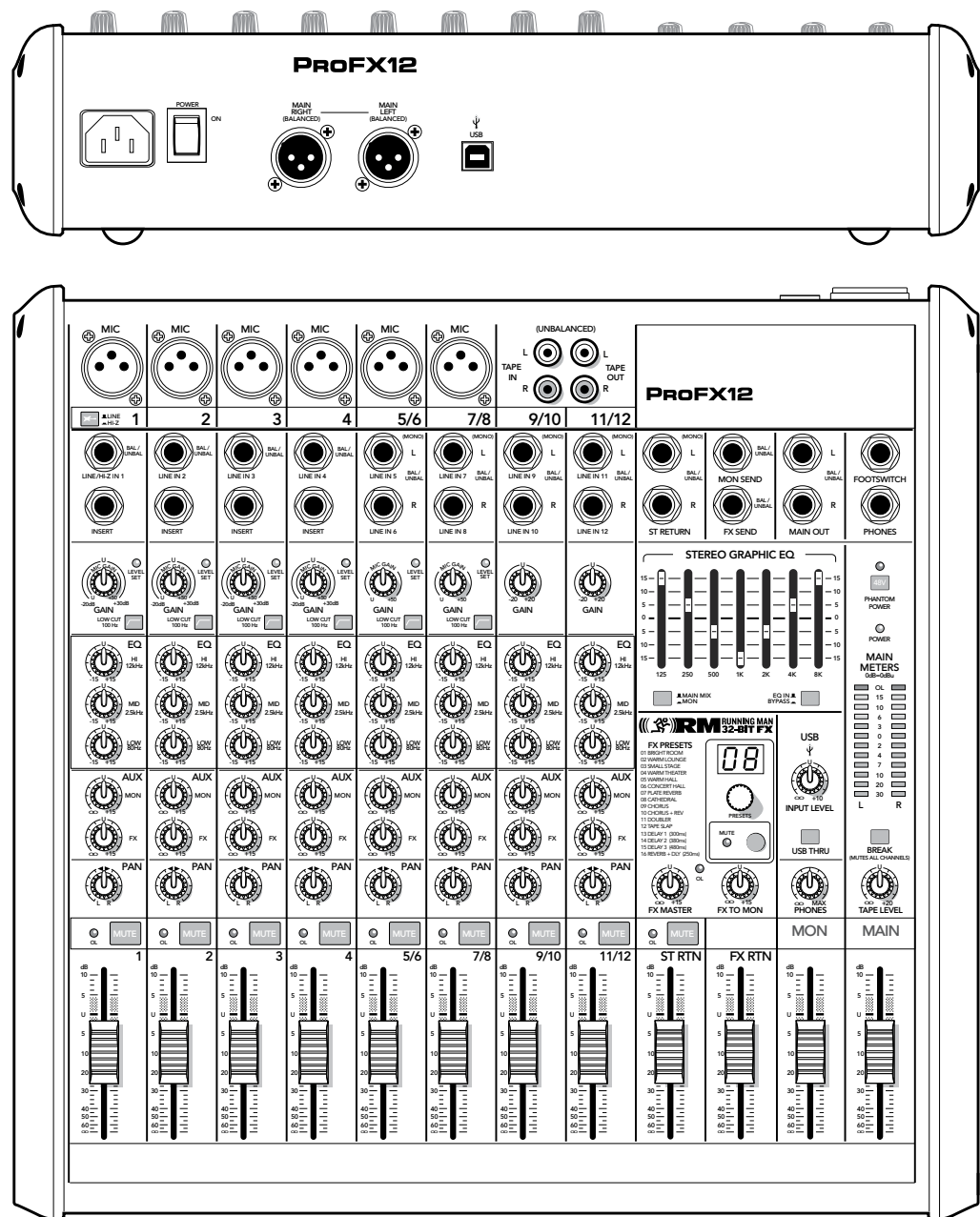


ProFX8 and ProFX12

Professional Mic/Line Mixers with FX and USB I/O

日本語オーナーズマニュアル



安全のために

この製品を設置、使用される前に必ずお読みください。

お使いになる方や周囲の方々への危害、財産への損害を防ぐため、下記の内容を守ってこの製品を安全にお使いください。本書はいつでもご覧になれる場所に保存してください。

本書で使用する記号について



「必ず守ってください」という強制を表しています。



「絶対にしないでください」という禁止を表しています。



警告

この記号は取扱を誤ると死亡や重傷、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。



必ず実行

本書をすべて読むこと

この製品を設置、使用する前に必ず本書をすべてよく読み、本書の内容にしたがってください。



必ず実行

電源コードや電源アダプターは仕様に適合した電源に接続すること

適合しない電源に接続すると、本体の故障、火災や感電の原因になる場合があります。



必ず実行

確実に接地すること（アース）

感電を防止するため、確実にアースに接続してください。



禁止

水分をかけたり湿気にさらさないこと

この製品の上に花瓶や飲み物など、液体が入ったものを置かないでください。この製品を直接水がかかる場所、または湿度の高い場所に置かないでください。感電や火災、故障の原因になります。



禁止

本体を落下しないこと

本体の故障はもちろん、周囲の方が負傷する原因になります。



禁止

電源コードを濡れた手でさわらないこと

感電の原因になります。



禁止

長時間にわたってヘッドフォンで大きな音量を聴かないこと

一時的または恒常的な難聴になる場合があります。



必ず実行

移動するときはケーブルをすべて抜くこと

電源コードや接続ケーブルを接続したまま本体を移動しないでください。ケーブルを傷めたり、周囲の方が転倒する原因になります。



必ず実行

異臭や異常を感じたら修理を依頼すること

正常に機能しない、電源コードやプラグに異常がある等の場合は、修理をお申し付けください。



必ず実行

長時間使用しないときや落雷の危険があるときは電源プラグを抜くこと

火災や感電、故障の原因になる場合があります。



禁止

本体内部に液体や物を入れないこと

火災や本体故障の原因になる場合があります。この場合は修理をご依頼ください。

**警告**

この記号は取扱を誤ると死亡や重傷、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。



禁止

製品を分解したり改造しないこと
火災や感電、けが、故障の原因になります。本体の内部にはお客様が操作する部分はありません。



禁止

本体の内部や周囲で可燃性ガスのスプレーを使用しないこと
ガスが滞留して引火による火災などの原因になります。



禁止

本体の換気用開口部をふさがないこと
本体内部の温度上昇を防ぐため、この製品の表面には換気用開口部があります。この開口部をふさぐと適切に換気ができず、内部の温度が上昇して故障や火災、誤作動の原因になる場合があります。



必ず実行

電源コードは必ずこの製品に付属のものを使うこと
適合しないものを使用すると通電中に電源コードが加熱し、火災の原因になる場合があります。



必ず実行

電源ソケットに手が届くよう設置すること
この製品の背面には電源を遮断する電源ソケットが付いています。この電源ソケットに簡単に手が届くよう設置してください。

**注意**

この記号は取扱を誤ると負傷、機器の損傷や物的損害の原因になる可能性がある内容に付いています。



必ず実行

本体は安定した場所に設置すること
本体を不安定な場所に設置すると、落下などによる故障の原因になります。



禁止

テレビ、ラジオ、携帯電話の近くで使用しないこと
この製品またはテレビやラジオなどに雑音が入る場合があります。



禁止

高温になる場所に設置しないこと
直射日光が当たる場所、熱を発するものの近くに置かないでください。製品の上にもうそくなど裸火を置かないでください。



禁止

この製品に付属している電源コードを他の電気用品に使用しないこと
この製品に付属している電源コードはこの製品専用のものです。他の電気用品には絶対に使用しないでください。



必ず実行

ファンタム電源は適切に操作すること
ファンタム電源は対応するコンデンサーマイクを接続したときだけ供給してください。ファンタム電源スイッチは接続しているアンプをミュートしてから操作してください。



禁止

ボタンやスイッチ、入出力端子に無理な力を加えないこと
本体の故障やお使いになる方がけがをする原因になる場合があります。



禁止

本体の上に乗ったり重い物を載せないこと
製品の故障の原因になります。

修理

日本仕様の Mackie 製品の修理は、音響特機株式会社または提携サービスセンターで行っています。Mackie 製品の修理やメンテナンスが必要な場合は、次の手順に従ってください。

1. 本書でご紹介しているトラブルシューティングの内容をチェックして下さい。
2. テクニカルサポートに電話でまたは、support_mackie@otk.co.jp にメールで「メンテナンス申込書」を請求してください。「メンテナンス申込書」に必要な事項をご記入の上、04-2944-3812 へ FAX してください。折り返し RA 番号と送付先のサービスセンターが記載された修理受付票を FAX で返送いたします。RA 番号はサービスセンターへ送付される前に必ず取得してください。
3. オーナーズマニュアルと電源コードは同梱しないでください。修理には必要がありません。
4. 本体を梱包材とともに製品パッケージに入れて、サービスセンターへ送付してください。当社では輸送上のダメージを保証することができません。
5. 必ず、RA 番号が記載された修理受付票のコピーを同梱してください。また送り状の通信欄にも、RA 番号と商品名、製造番号を記載してください。RA 番号のない修理品は受付することができません。
6. 保証内修理を行う場合には、販売店印とご購入日が明記された保証書が必要です。くわしくは、次項の保証規定をご参照ください。

保証

本機の保証はご購入後 1 年間となっております。

正常な使用状態で本体に不具合が生じた場合、正規のサービス担当者が無償で修理を行います。ただし、下記の場合は保証規定から除外されておりますので、あらかじめご了承ください。

- お客様による輸送、移動中の落下、衝撃など、お客様のお取り扱いが適正ではなかったために故障が生じた場合
- お客様のご使用上の誤り、不適正な改造、弊社の認可のない改造及び修理が行われている場合
- 火災、煙害、ガス害、地震、落雷、風水害などの天変地異、あるいは異常電圧などの外部要因によって故障が生じた場合
- 本機に接続している機器及び消耗品に起因する故障、損傷
- 正常な状態でのご使用中でも、自然消耗、摩耗、劣化によって故障あるいは損傷が生じた場合
- 日本国外でご使用中の故障、損傷

技術的なご質問・修理窓口

サポートセンター

〒359-0023 埼玉県所沢市東所沢 2-37-1

(株)サヤマトラフィック 敷地内

☎ 04-2944-3811

FAX 04-2944-3812

✉ support_mackie@otk.co.jp

営業時間

月曜日～金曜日 9:00 ～ 17:30

休業日

土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏期

営業窓口

東京

東京都中央区日本橋小伝馬町 10-1

☎ 03-3639-7800 (代表)

FAX 03-3639-7801

大阪

大阪府大阪市淀川区宮原 2-14-4

☎ 06-6152-7751

FAX 06-6152-7752

名古屋

名古屋市東区泉 1-23-30

☎ 052-950-3324

FAX 052-950-3325

福岡福岡市南区大橋 4-16-18-201

☎ 092-554-6066

FAX 092-554-6064

営業時間

月曜日～金曜日 9:00 ～ 17:30

休業日

土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏期

ご質問は電子メールでも承ります。

✉ sales_mackie@otk.co.jp

必ずお読みください！



新しいミキサーを今すぐ試したい！というお気持ちはよく分かります。しかしまず、冒頭の安全に関する注意とこのページを必ずお読みになり、続けて残りのページもすべてお読みください。

ミキサーの初期化

1. チャンネル **EQ** と **PAN** ノブ以外のノブをすべて最小の位置にし、フェーダーをすべて完全に下げてください。
2. 全チャンネルの **EQ** ノブ、**PAN** ノブ、グラフィック **EQ** のスライダーをセンタークリックの位置にします。
3. 3. すべてのボタンを突き出した状態にします。
4. 4. 人気番組のテーマ音楽を口笛で吹いてみましょう。

接続

ミキサーのどこに何を接続したいかをお分かりなら、お好きなように入力と出力を接続してください。ミキサーに音を通したいだけ、という方は以下の手順で操作してください。

1. 下記のようなシグナルソースをミキサーに接続します。
 - マイクをマイク入力に接続し、必要に応じてファンタム電源をオンにします。ファンタム電源が必要かどうかはマイクの取扱説明書でご確認ください。
 - キーボード、ドラムマシン、**CD** プレーヤーなどラインレベルのソースをラインレベルの入力に接続します。
 - ギターはチャンネル **1** に接続し、**Hi-Z** スイッチを押してください。
2. ミキサーのメイン出力とパワードスピーカーやアンプのラインレベル入力を接続します。
3. ミキサーの電源コードを適切なコンセントに接続し、ミキサーの電源スイッチをオンにします。
4. パワードスピーカーをオンにします。またはパッシブスピーカーとアンプをスピーカーケーブルで接続してアンプの電源をオンにします。それぞれレベルはメーカーの推奨値に設定してください（たいていはフルに上げておきます）。

ゲイン設定の手順

1. 入力に何かを接続します。楽器、あなたの歌声やしゃべり、キーボードや **CD** プレーヤーなどのラインレベルソース、なんでもかまいません。その入力の音量はふだんのボリューム、または **GAIN** を中程度に設定できるよう調整、ヘッドフォンで聴いているときは、チャンネルフェーダーとヘッドフォンレベルをゆっくり上げてください。
2. モノチャンネルの **GAIN** ノブはマイク入力とライン入力に作用します。2つのハイブリッドチャンネルの **GAIN** ノブはマイク入力のゲインにだけ作用します。ステレオチャンネルの **GAIN** はステレオライン入力を調整するものです。自由に、しかし最も音量の高い部分で **OL LED** が

点灯しないよう調整してください。

3. 他のチャンネルでも手順 **1** と **2** をくり返します。

テストミックス

1. サウンドをスピーカーから再生してお待ちかねの世界に引き出すには、チャンネルのアサインスイッチを押してフェーダーを「**U**」（ユニティゲイン）まで上げ、快適なリスニングレベルになるようメインフェーダーをゆっくり上げます。
2. 2. 歌ったり演奏してください。あなたはスターです！他のチャンネルをミックスに引き込み、フェーダーを上げて一般に喜ばれるナイスミックスを作ってください。

USB

USB で接続すると、パソコンの **2** チャンネルオーディオを再生したり、メインミックスをパソコンに録音することができます。

Notes

最高の音響特性を実現するため、チャンネルフェーダーとメインミックスフェーダーは「**U**」（ユニティゲイン）付近に設定しましょう。

ProFX に他の機器を接続したり外すときは、あらかじめすべてのフェーダーを完全に下げてください。

電源を切るときは、アンプやパワードスピーカーが最初です。電源を入れるときはこれらの機器が最後です。これで電源を入り切りするときスピーカーからノイズが再生されにくくなります。

外箱は保管しておきましょう。将来必要になるかもしれません。

はじめに

このたびは **Mackie** プロフェッショナル **ProFX** ミキサーをご購入いただき、ありがとうございます。この製品には素晴らしいマイクプリアンプ、内蔵 **FX** プロセッサー、コンピューターを使って 2 チャンネルの録音や再生をするための **USB** ポートを装備しています。**ProFX8** は 8 チャンネル、**ProFX12** は 12 チャンネルです。この違いを除けば両方のモデルは同じもので、本書では両方をご紹介します。

Mackie はツアーに持ち出すべきものを知っています。結局 **Mackie** のミキサーが世界中を旅し、時には最悪のコンディションに遭遇してきた中で学んだものを、**ProFX** の機械設計に生かしたのです。

ライブシーンにおいて、信頼性は何にも勝ります。それこそ、**Mackie** のエンジニアが設計を最終調整のときに考えつく限り最も過酷で手の込んだテストをくり返し、普通のミキサーの限界をはるかに超えさせた理由なのです。

特長

- **ProFX8** は 8 チャンネル (2 モノラル、2 ハイブリッド、1 ステレオ)
- **ProFX12** は 12 チャンネル (4 モノラル、2 ハイブリッド、2 ステレオ)
- モノラルチャンネルにはマイク入力とモノラルラインレベル入力を装備、ゲインコントロールの他、マイクとラインのゲインを調整するためのゲインセット **LED** 付き
- ハイブリッドチャンネルはマイク入力とステレオラインレベル入力を装備し、マイクのゲインを調整するためのゲインコントロールとレベルセット **LED** 付き
- ステレオチャンネルにはラインレベルのステレオ入力があり、ラインのゲインを調整するためのゲインコントロールとレベルセット **LED** 付き
- 全マイクに **+48V** ファンタム電源を供給可能
- ステレオ **RCA** ピンのテープ / **CD** 入力、出力
- チャンネル 1 の **Hi-Z** スイッチで **DI** ボックスを使わずにギターやベースを直接接続可能
- モノラルチャンネルには **1/4 TRS** でインサートジャックを装備
- モノラルとハイブリッドチャンネルにはハイパススイッチ付き
- 各チャンネルとも 3 バンド **EQ** 付き
- 各チャンネルとも **AUX** モニターコントロール付き
- 各チャンネルにパンコントロール、ミュートスイッチ、**OL LED**、フェーダーを装備
- ミュート、**OL LED**、フェーダー付きのステレオリターン
- メインステレオライン出力は **XLR** と **1/4 TRS** で装備
- ステレオリターンは **1/4 TRS** ジャック
- **FX** センドとモニターセンドは **1/4 TRS** ジャック
- ステレオヘッドフォン出力は **1/4 TRS**
- ヘッドフォン用レベルコントロール付き
- テープ入力レベルコントロール付き

- 内蔵の 16 **Running Man** エフェクトには入力レベル、**OL LED**、プリセットディスプレイ、**FX to** モニターレベルを装備、さらにミュート / ミュート解除フットスイッチ対応
- メインミックスまたはモニターミックスにかけられバイパスも可能な 7 バンドのグラフィック **EQ** 装備
- メインミックスには 12 セグメントのステレオ出力メーター付き
- テープ入力と **USB** 入力以外の全チャンネルをミュートする **Break** スイッチ付き
- ステレオリターン、**FX** リターン、モニター、メインにフェーダーを装備
- 2 チャンネルをコンピューターに録音、またはコンピューターから再生可能な **USB** 接続
- **USB thru** スイッチと入力レベル付き

このマニュアルの使い方

目次のすぐ後に接続例をご紹介します。**ProFX8**、**ProFX12** の一般的なセットアップです。

続いてミキサー全体をくわしく説明するツアーが始まります。ミキサー本体のゾーンと同様、いくつかのセクションに分けて説明しています。

- リアパネル：AC 入力、電源スイッチ、**USB I/O**
- 接続部：上部にあり、マイクやギターなどを接続する部分です。
- チャンネルコントロール：各チャンネルを調整するチャンネルストリップです。
- マスターコントロール：フロントパネル右側のゾーンで、グラフィック **EQ** やメインレベルコントロールなどがあります。
- ステレオエフェクトプロセッサー

すべてのセクションを通して番号付きの図があり、近くに解説があります。

このアイコンは、特に重要な情報やこのミキサーに特有の機能を説明した文章に付いています。読んで覚えておくといくつかのセクションに付いています。



「付録 A」サービス情報

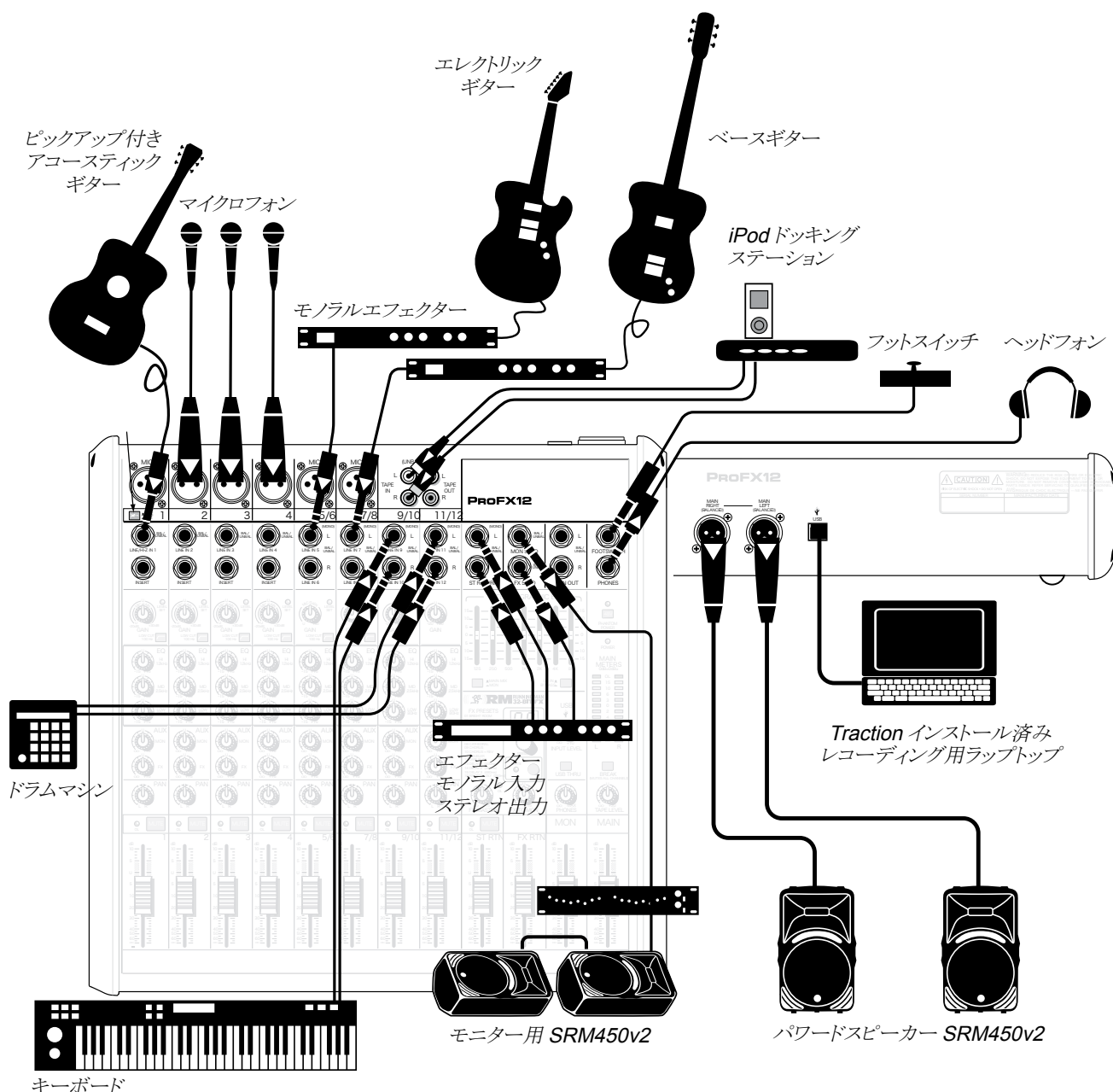
「付録 B」接続

「付録 C」技術情報

目次

必ずお読みください！	5	35. TAPE LEVELノブ	24
はじめに	6	36. STEREO GRAPHIC EQ	24
接続ダイアグラム	8	37. MAIN MIX/MONスイッチ	24
リアパネル	14	38. EQ IN/BYPASSスイッチ	24
1. 電源ソケット	14	39. USB INPUT LEVELノブ	24
2. 電源スイッチ	14	40. USB THRU	25
3. XLRメイン出力	14	41. PHONESレベルノブ	25
4. USB ポート	14	42. OL LED (ステレオリターン用)	25
フロントパネルの機能	15	43. MUTEスイッチ (ステレオリターン用)	25
5. MIC入力	15	44. ステレオリターンフェーダー	25
6. LINE/Hi-Zスイッチ	15	45. FXリターンフェーダー	25
7. LINE/Hi-Z入力 (ch1のみ)	15	46. モニターフェーダー	25
8. MONO LINE INジャック	16	47. メインフェーダー	25
9. STEREO LINE入力	16	ステレオエフェクトプロセッサ	26
10. INSERTジャック	16	46. プリセットディスプレイ	26
11. STEREO RETURNジャック	16	49. プリセット セレクター	26
12. MON SENDジャック	17	50. FX MUTE	26
13. FX SEND	17	51. FXマスター	26
14. MAIN OUT、1/4インチ	17	52. OL LED	26
15. FX FOOTSWITCH	17	53. FX TO MON	26
16. PHONES	17	付録A: サービス情報	28
17. TAPE INPUTジャック	18	トラブルシューティング	28
18. TAPE OUTPUTジャック	18	付録 B: 接続コネクタ	29
チャンネルコントロール	19	XLRコネクタ	29
19. GAIN ノブ	20	1/4インチTRSコネクタ	29
20. LEVEL SET LED	20	1/4インチTSコネクタ	29
21. LOW CUTスイッチ	20	RCAコネクタ	29
3バンドイコライザー (EQ)	21	TRSセンド/リターンインサートジャック	30
22. HI EQ	21	付録 C: 技術情報	31
23. MID EQ	21	仕様	31
15. LOW EQ	21	外形寸法、重量	32
イコライジングの節度	21	ブロックダイアグラム	33
25. AUX MONノブ	21		
26. AUX FX	22		
27. PAN	22		
28. OL LED	22		
29. MUTEスイッチ	22		
23. チャンネルフェーダー	22		
マスターコントロール	23		
31. PHANTOMスイッチ	23		
32. POWER LED	23		
33. メーター	23		
34. BREAKスイッチ	24		

接続ダイアグラム

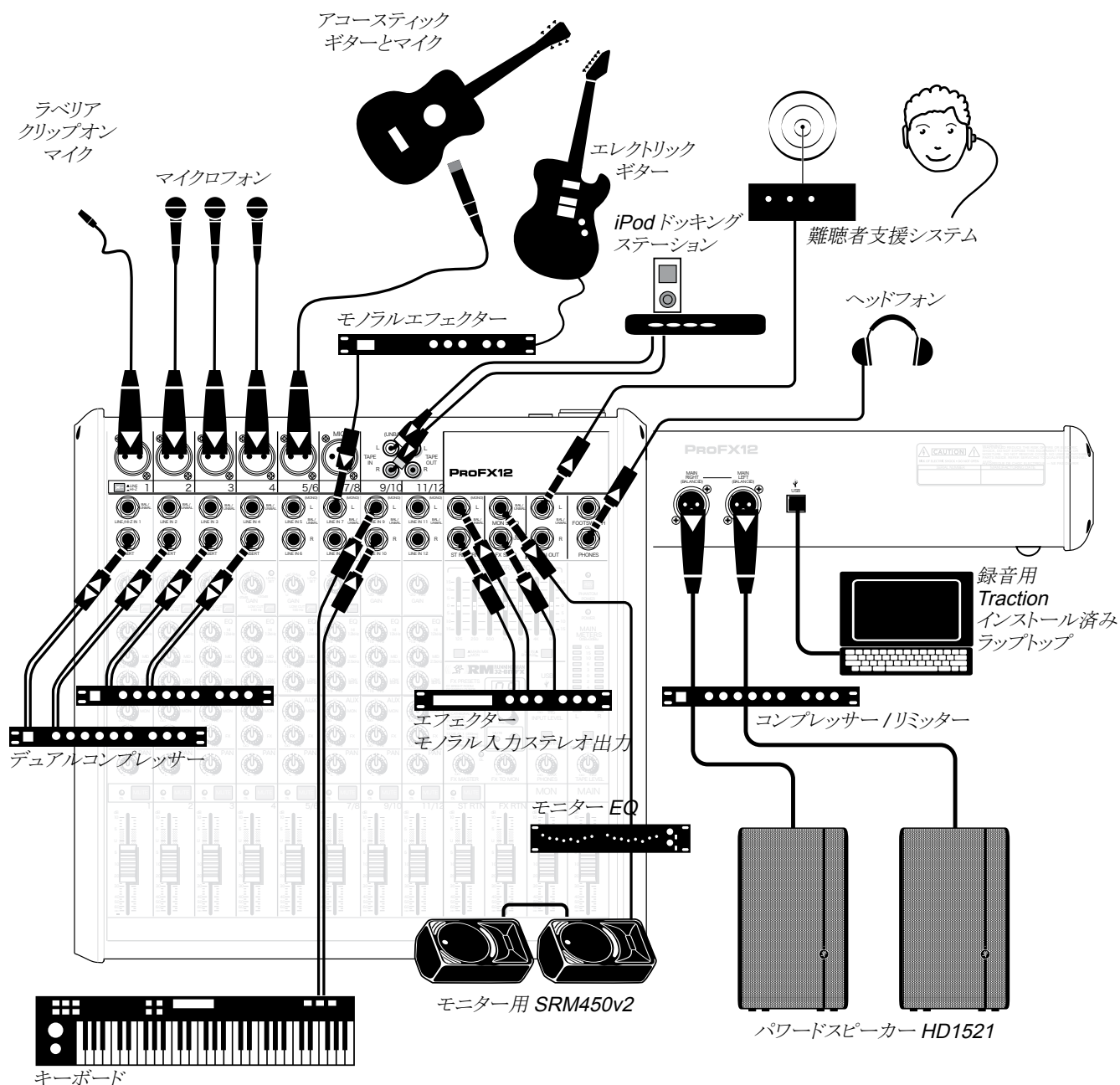


このダイアグラムでは、ギターをチャンネル 1 に (Hi-Z スイッチを押して) 直接つなぎ、マイクをチャンネル 2 から 4 に、ギター用エフェクターを 5/6 と 7/8 チャンネルの L 入力に、キーボードをチャンネル 9/10 のラインレベル入力に、ドラムマシンをチャンネル 11/12 に接続しています。iPod ドッキングステーションをステレオテープ入力に接続します。エフェクターは FX センドからモノラル入力を受け、ステレオ出力をステレオリターンに送っています。

Mackie のパワードスピーカー SRM450v2 がメイン出力 L、R に接続されています。他に 2 台がステージモニターとして、グラフィック EQ を経由してミキサーのモニター出力に接続されています。各チャンネルの AUX MON ノブでメインミックスとは別にモニターミックスを作ることができます。必要に応じてステージモニターをイコライジングするため外部 EQ を使ってください。モニター用にヘッドフォンを、必要に応じて内蔵エフェクトのミュート/ミュート解除を操作するためフットスイッチを、それぞれ使います。

ラップトップを USB ポートに接続すると、Traction ソフトウェアで本番の 2 チャンネルメインミックスを録音することができます。またコンピューターからメインミックスに向けて 2 チャンネルの音声を再生することもできます。

ProFX12を使ったバンドシステム

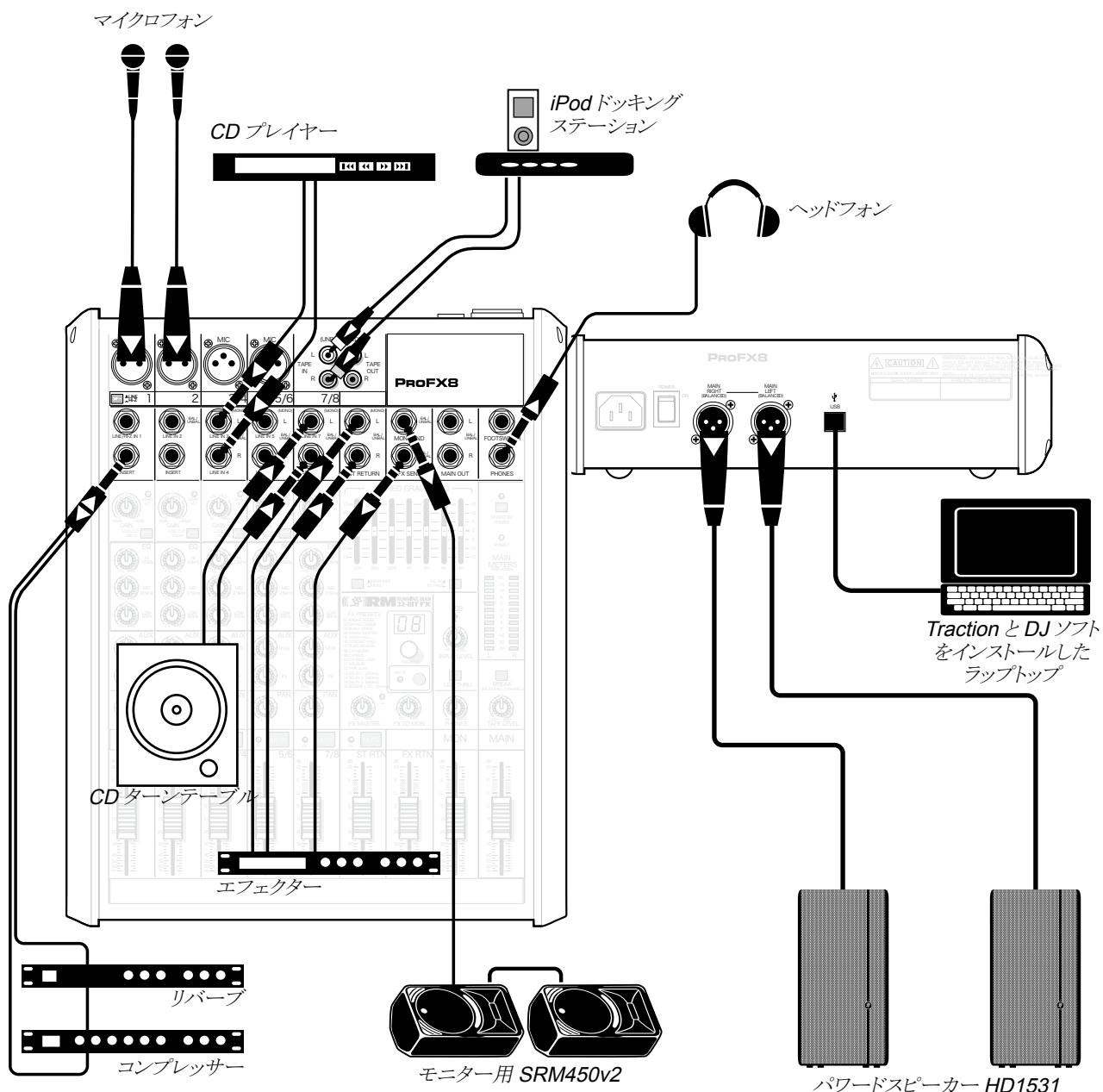


このダイアグラムでは、さまざまなマイクをチャンネル 1 から 4、ギター用マイクをチャンネル 5/6、ギター用エフェクターをチャンネル 7/8 の L ラインレベル入力、キーボードをチャンネル 9/10 のライン入力に接続しています。iPod ドッキングステーションはステレオテープ入力に接続しました。エフェクターは FX センドからモノラル入力を受け、ステレオリターンにステレオ出力を送ります。難聴者支援システムをラインレベルのメイン出力に接続します。デュアルコンプレッサーをチャンネル 1 から 4 に挿入しボーカルをコンプレッションします。

Mackie のパワードスピーカー HD1521 を、コンプレッサー/リミッター経由でメイン出力の L と R に接続します。パワードスピーカー SRM450v2 を 2 台ステージモニターのセットアップにして、グラフィック EQ を経由してミキサーのモニター出力に接続します。各チャンネルの AUX MON ノブでメインミックスとは別にステージモニターミックスを作ることができます。ステージモニターをイコライジングするときは外部グラフィック EQ を使います。モニター用にヘッドフォンも用意してあります。

ラップトップを USB ポートに接続し、Traction ソフトウェアで 2 チャンネルのメインミックスから説教を録音することができます。またメインミックスに対して、2 チャンネルの音声を再生することもできます。

ProFX12を使った宗教施設のシステム

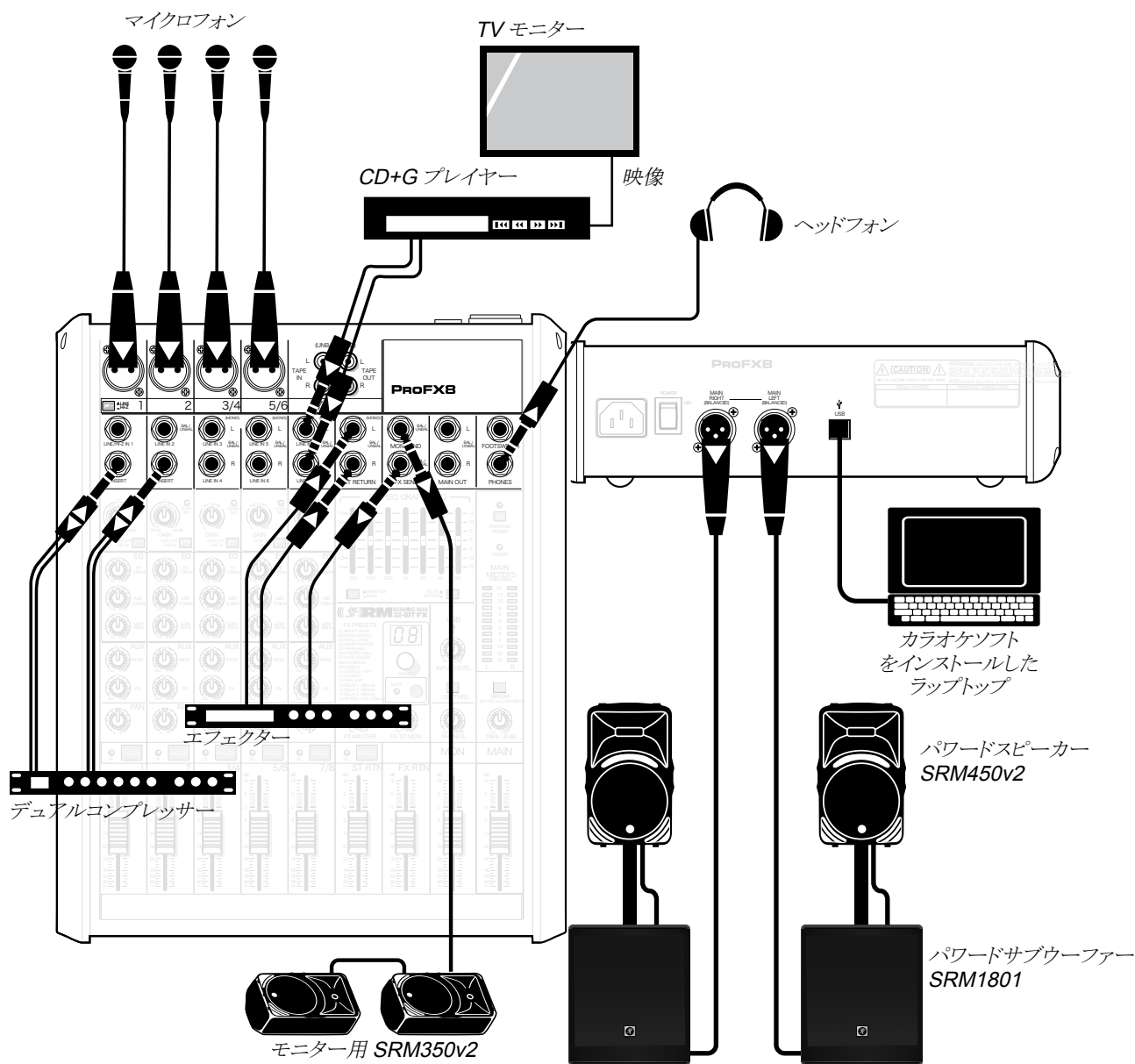


このダイアグラムでは、2本のマイクをチャンネル1と2、CDプレイヤーをチャンネル3/4のラインレベル入力、CDターンテーブルをチャンネル7/8のラインレベル入力に接続します。iPodドッキングステーションはステレオテープ入力に接続します。エフェクターはFXセンドからモノラル信号を受け、ステレオ出力をステレオリターンに送ります。リバーブとコンプレッサーをチャンネル1に挿入し、ボーカルをコンプレッションしたりリバーブ感を持たせたりします。

MackieのパワードスピーカーHD1531をメイン出力のLとRに接続します。SRM450v2を2台ステージモニターとしてミキサーのモニター出力に接続します。各チャンネルのAUX MONノブで、メインミックスとは別にステージモニターミックスを作ることができます。必要に応じて内蔵グラフィックEQをステージモニターEQに切り替えてください。モニター用にヘッドフォンもあります。

ラップトップはUSBポートに接続し、メインミックスに対してDJソフトウェアから2チャンネルを出力します。また後日のためにコンピューターにセットを録音しておくこともできるでしょう。

ProFX8を使ったDJシステム

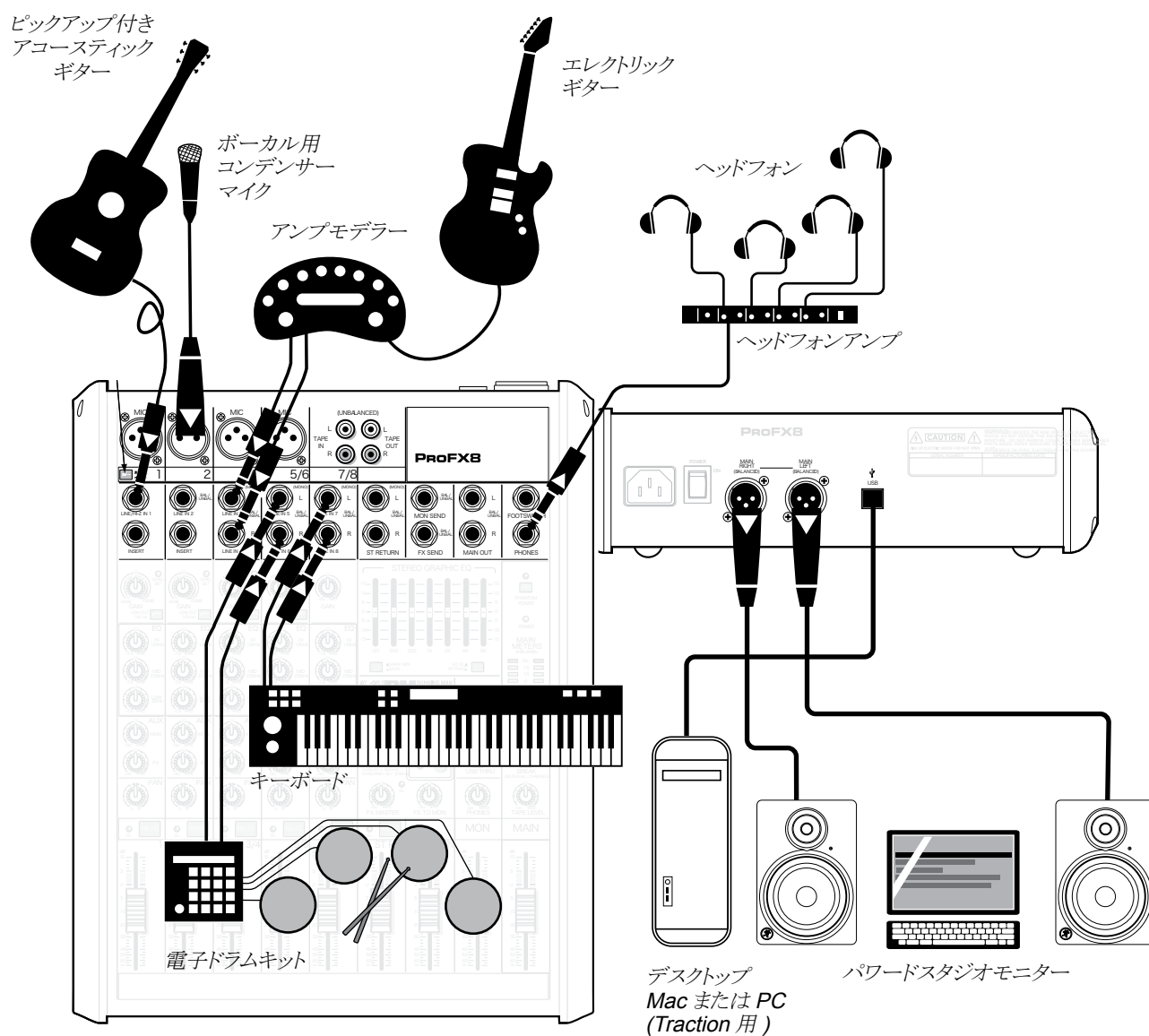


このダイアグラムでは、マイクをチャンネル 1 から 4、CD+G プレイヤーをチャンネル 7/8 のラインレベル入力に接続します。i エフェクターは FX センドからモノラル信号を受け、ステレオ出力をステレオリターンに送ります。デュアルコンプレッサーをチャンネル 1 と 2 に挿入し、ボーカルをコンプレッションします。

Mackie のパワースピーカー SRM450v2 とサブウーファー SRM1801 をメイン出力の L と R に接続します。SRM350v2 を 2 台ステージモニターとしてミキサーのモニター出力に接続します。各チャンネルの AUX MON ノブで、メインミックスとは別にステージモニターミックスを作ることができます。モニター用にヘッドフォンもあります。

カラオケソフトを動かすラップトップは USB ポートに接続し、メインミックスに 2 チャンネルを出力します。

CD+G プレイヤーから文字と映像を TV モニターに映すことができます

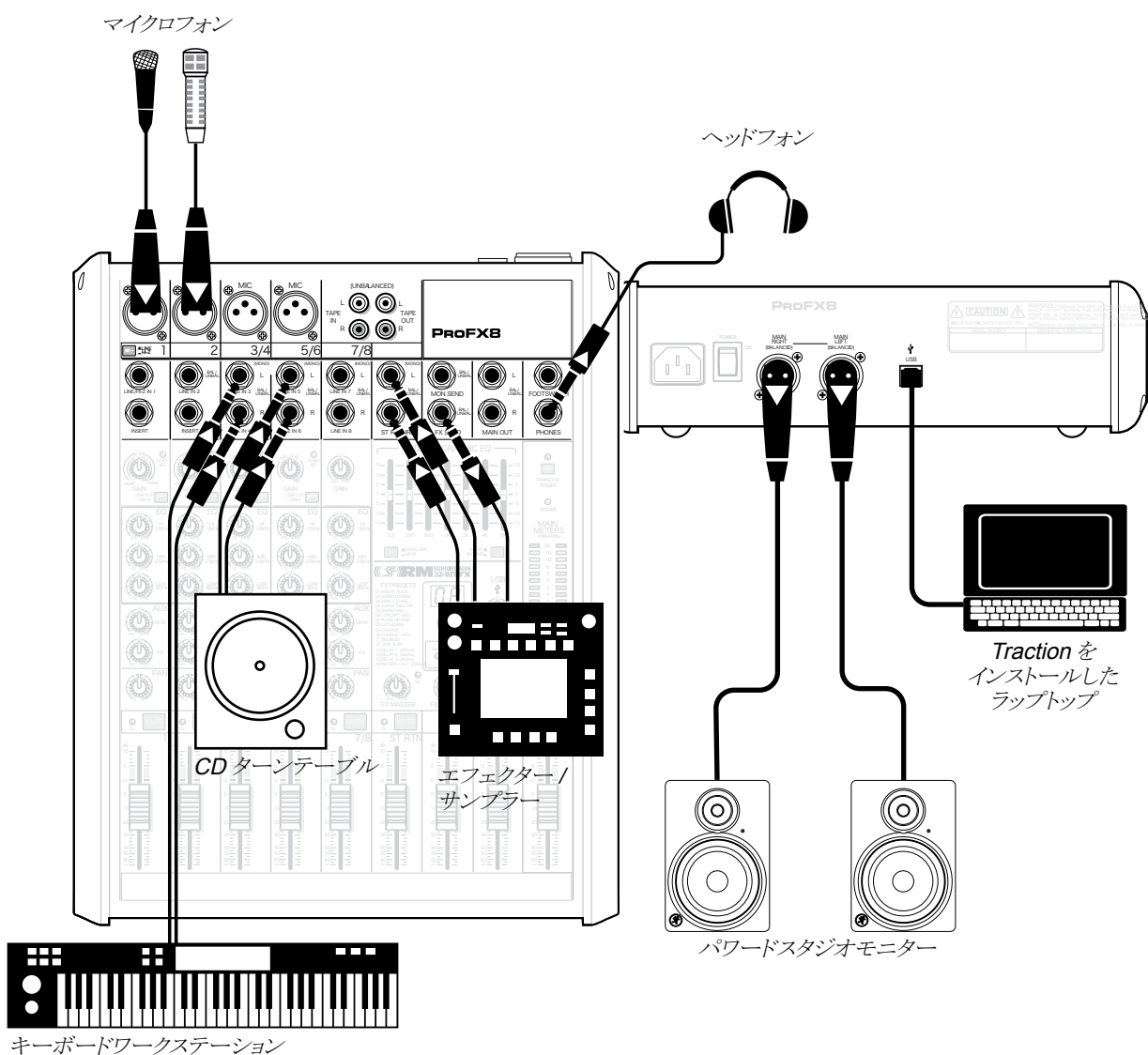


このダイアグラムでは、アコースティックギターをチャンネル 1 (Hi-Z スイッチを押します)、コンデンサーマイクをチャンネル 2 のマイク入力、ギターアンプモデラーをチャンネル 3/4 のラインレベル入力、電子ドラムキットをチャンネル 5/6、キーボードをチャンネル 7/8 に、それぞれ接続します。

パフォーマンスを慎重かつ正確にモニターするため、パワードスタジオモニターをメイン出力の L と R に接続します。

デスクトップは USB ポートに接続し、Traction ソフトウェアを使って 2 チャンネルのメインミックスを録音したり、2 チャンネルを再生します。

ProFX8を使ったホームスタジオシステム



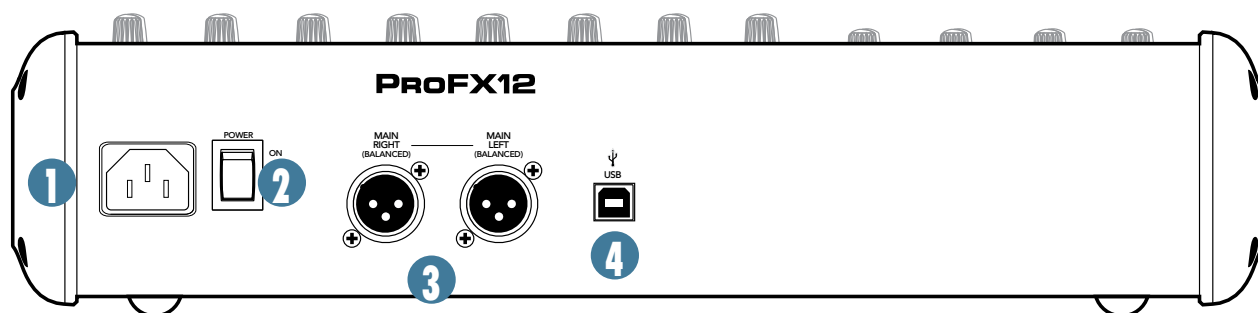
このダイアグラムでは、マイクをチャンネル 1 と 2、キーボードワークステーションをチャンネル 3/4 のラインレベル入力、CD ターンテーブルをチャンネル 5/6 のラインレベル入力に接続します。エフェクター / サンプラーは FX センドからモノラル信号を受け、ステレオ出力をステレオリターンに送ります。

パフォーマンスを慎重かつ正確にモニターするため、パワードスタジオモニターをメイン出力の L と R に接続します。

ラップトップは USB ポートに接続し、Traction ソフトウェアを使って 2 チャンネルのメインミックスを録音したり、2 チャンネルを再生します。

ProFX8を使ったPodCastシステム

リアパネル



1. 電源ソケット

標準的な 3 ピンの IEC 準拠電源コネクタです。付属の着脱式電源コードをこのソケットに、もう一方の端を AC コンセントに差し込んでください。ProFX シリーズはユニバーサル電源部を採用しているので、100 VAC から 240 VAC のあらゆる AC 電圧に対応します。電圧を切り替えたり、ステップアップまたはステップダウントランスは不要です。事実上世界中のどこでも正しく動作します。従来の電源部に比べて電圧のディップやスパイクに対する耐性が高く、電磁波のアイソレートや AC 電源ノイズからのプロテクトも良好です。

2. 電源スイッチ

このロッカースイッチを上側に押し込むとミキサーに電源が入ります。適切で生きている電源を接続してあれば、フロントパネルの POWER LED [32] が幸せそうに、少なくともふつうには点灯するでしょう。

このスイッチを下側に押すと、ミキサーはスタンバイモードになります。これで機能しなくなりますが、まだ内部の回路はいくつか動作しています。電源を切るには電源の供給を止めるか、ミキサーの電源コードを AC コンセントから抜いてください。



原則として、電源を入れるときは、パワーアンプやパワードスピーカーより先にミキサーをオンにします。電源を切るときはミキサーを最後にしてください。これで電源をオンオフするときに発生するノイズがスピーカーから再生されにくくなります。

3. XLRメイン出力

XLR コネクタはステレオのラインレベル信号をメインミックスから提供します。この出力をパワードスピーカーやメインスピーカーをドライブするパワーアンプに接続してください。

メインミックスはそのとき再生しているアクティブなチャンネルを、コンピューターからの 2 チャンネル USB 入力も含めてサミングします。チャンネルがメインミックスでどの程度聞こえるかは、チャンネルのフェーダー [30] で調整します。



XLR 出力は 1/4 インチ TRS メイン出力 [14] より 6dB 高くなっています。バランス接続は外部ノイズ（特にハムや低域ノイズなど）に対して、アンバランスよりも耐性があります。このため、特に長いケーブルを使うとき、相互接続の方法として好まれます。

4. USB ポート

USB シリアル I/O インターフェースで、コンピューターとの間でデジタルオーディオをやり取りすることができます。

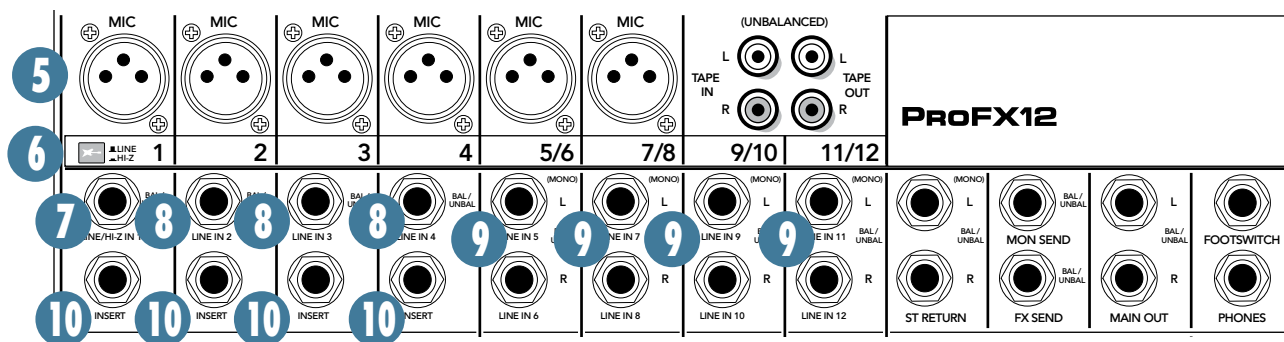
このインターフェースはコンピューターから 2 つの音声出力を提供します。

- メインミックス出力の L と R です。この出力信号はメインフェーダー [47] やグラフィック EQ [36] の操作に影響を受けません。このため、ライブの本番をラップトップに直接録音することができます。
- USB thru スイッチ [40] で、コンピューターからの出力をレコーディングに含めることができます。このスイッチについてくわしくは 25 ページをごらんください。

コンピューターからこの USB インターフェースを使って 2 チャンネルを再生することもできます。

- コンピューターからの L と R の信号は、メインミックスに追加されます。USB 入力レベルコントロール [39] でコンピューターからメインミックスに追加される音声のレベルを調整することができます。

フロントパネルの機能



接続部

ここは何か、マイクロフォン、ラインレベルの楽器やエフェクター、ヘッドフォンと、サウンドの最適な行き先である PA システム、ステージモニター、エフェクター、CD プレイヤー / レコーダーなどをつなぐ場所です。

5. MIC入力

Mackie では、大型コンソールのようなファンタム電源を供給可能なバランスのマイク入力を、同じ理由で採用しています。この種の回路はハムやノイズ除去に優れているためです。標準の XLR オスコネクターが付いたものなら、ほとんどすべての種類のマイクを接続することができます。

この入力を通すと、業務用のリボン、ダイナミック、コンデンサーマイクがすばらしいサウンドになるでしょう。ProFX ミキサーのマイク入力は、どんなマイクレベルでも過負荷にすることなくトスします。ゲイン設定の手順は 5 ページをごらんください。

ファンタム電源について

多くの現代的な業務用コンデンサーマイクには、ミキサーから音声を送る心線そのものを通じて送られる低電流の直流電圧、ファンタム電源が必要です（半民生モデルのコンデンサーマイクでは同じ目的のために電池を使うこともあります）。「ファンタム」（お化け）という名前の通り、外部電源不要のダイナミックマイク (SHURE SM57 や SM58 など) は見ることもなく、影響を受けることはありません。

ProFX ミキサーのファンタム電源は PHANTOM スイッチ [31] で一括して供給します（つまり全マイク入力が一斉に ON または OFF になります）。



ファンタム電源を供給しているとき、シングルエンド（アンバランス）のマイクやリボンマイクをマイク入力に接続しないでください。安全であるという確信がない限り、ファンタム電源が供給されているマイク入力に楽器の出力を接続しないでください。

6. LINE/Hi-Zスイッチ

ギターを直接、DI ボックスを使わずに接続するときは、このスイッチを押してください。それからギターの出力をチャンネル 1 の 1/4 インチ TRS 入力 [7] に接続します。この入力のインピーダンスは直接接続を最適化し、高域をより忠実に再生します。

このスイッチが突き出した位置のとき、チャンネル 1 の 1/4 インチ TRS 入力他他のモノラルライン入力 [8] と同じです。

ギターなどの楽器を他のチャンネルに接続するときは、まず外付けの DI ボックスを使わなければなりません。DI ボックスを使わず、このスイッチも押さずに接続すると、ギターは鈍くどろどろしたサウンドになります。

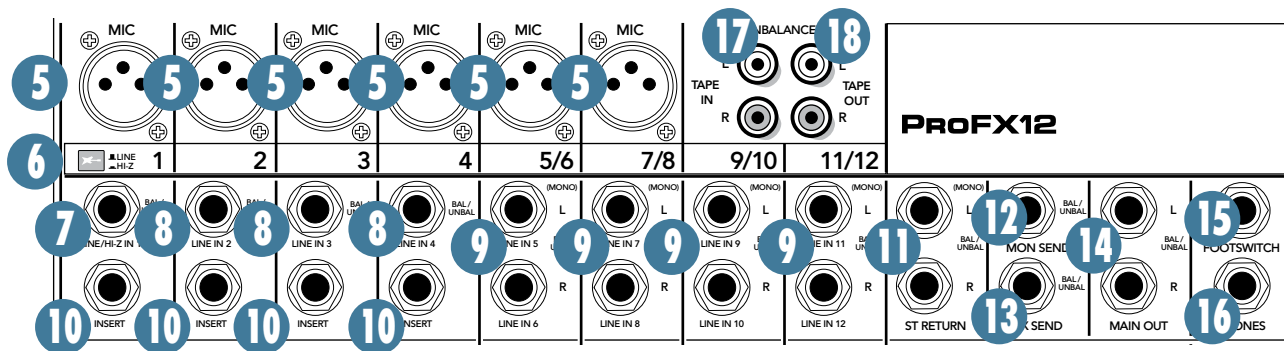
7. LINE/Hi-Z入力 (ch1のみ)

1/4 インチジャックで回路（ただしファンタム電源を除く）をマイクプリアンプと共用しており、バランスまたはアンバランスのソースでドライブすることができます。

バランスラインをこの入力に接続するときは、1/4 インチ TRS（チップ - リング - スリーブ）プラグをお使いください。

アンバランスラインをこの入力に接続するときは、1/4 インチ TS（チップ - スリーブ）プラグをお使いください。

このラインレベル入力は、LINE/Hi-Z スイッチ [6] を押すと楽器レベルの信号を受けることができます。このため DI ボックスを使わずに、ギターを直接チャンネル 1 に接続することができます。



8. MONO LINE INジャック

マイクプリアンプと（ファンタム電源以外の）回路を共用する 1/4 インチジャックで、バランスまたはアンバランスのソースを接続できます。

バランスラインを接続する場合は、下図の通りに配線された 1/4 インチのチップ・リング・スリーブのプラグ（TRS）をお使いください。

アンバランスライン信号を接続する場合は、下図の通りに配線された 1/4 インチのチップ・スリーブのモノラルフォンプラグ（TS）をお使いください。

A CLOSER LOOK ステレオソースを使っている、ステレオチャンネルやハイブリッドチャンネルが埋まっているときは、代わりにモノラルチャンネルを 2 つ利用しましょう。伝統的に奇数番号のチャンネルで L 側の信号を受けます。たとえば ProFX ミキサーにステレオ信号を送るとき、ソース機器の L 出力プラグをチャンネル 1 のジャック（PAN ノブを左に回し切ります）に、R 出力をチャンネル 2 のジャック（PAN ノブを右に回し切ります）に、それぞれ接続します。

9. STEREO LINE入力

この 1/4 インチジャックは、ステレオまたはモノラル、バランスまたはアンバランス信号でドライブすることができます。業務用あるいはセミプロ用の楽器、エフェクター、テープ再生機などを接続するときに使うことができます。

バランスラインを接続する場合は、下図の通りに配線された 1/4 インチのチップ・リング・スリーブのプラグ（TRS）をお使いください。

アンバランスライン信号を接続する場合は、下図の通りに配線された 1/4 インチのチップ・スリーブのモノラルフォンプラグ（TS）をお使いください。

モノラルソースを使うときは、L 入力（MONO と表示されています）に接続すると、信号はメインミックスの L と R に等しく現れます。

10. INSERTジャック

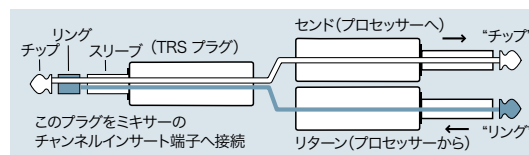
アンバランスの 1/4 インチジャックで、コンプレッサー、イコライザー、ディエッサー、フィルターなどのシリアルエフェクトを接続するためのものです。

インサートはモノラルチャンネルにしかありません。他のチャンネルでこれらのエフェクターを使う場合は、ProFX ミキサーに接続する前にプロセッサーを通してください。

このインサートポイントは回路上 GAIN ノブ [19]、LEVEL SET LED [20]、LOW CUT スイッチ [21] の後ろでチャンネル EQ [22-24] とチャンネルフェーダー [30] の前にあります。チャンネル信号はこのインサートジャックから外部機器に出て行き、プロセッシングされた後同じインサートジャックに戻ってきます。

このため下図のように配線された一般的なインサートケーブルが必要です。

- チップ = センド（エフェクトへの出力）
- リング = リターン（エフェクトからの入力）
- スリーブ = コモングラウンド



このインサートジャックをポストゲイン、プリ EQ のチャンネルダイレクト出力として使うこともできます。くわしくは 3030 ページの「インサート端子をセンドのみに使用」でご紹介しているインサートケーブルの項をご参照ください。

11. STEREO RETURNジャック

パラレルエフェクター（または外部音声ソース）の出力を接続するところです。この回路はステレオまたはモノラル、バランスまたはアンバランスの信号を受けることができます。一般に販売されている業務用あるいはセミプロ用のどんなエフェクターあるいはラインレベルのソースでも接続することができます。この入力から入ってくる信号はステレオリターンフェーダー [44] で調整してからメインミックスバスを通過します（25 ページ参照）。ここに来た信号はミュートスイッチ [43] でミュートされ、レベルが高すぎると OL LED [42] を点灯させます。

- **ステレオの場合**……ステレオパラレルエフェクター（ケーブルを 2 本使っているもの）の場合は L と R の両方を使います。
- **モノラルの場合**……モノラル出力（ケーブルが 1 本しかないもの）のエフェクターを接続するときは、ステレオリターン入力の L（MONO）にだけ接続してください。モノラル信号がメインミックスの両側に、魔法のようにモノラル信号としてセンターに出てきます。

12. MON SENDジャック

ステージモニターは、才能あるミュージシャンが自分のサウンドをはっきり確認するためのものです。良いことじゃありませんか。モニターミックスのレベルは、**AUX MON** ノブ [25] で慎重に調整してください。このノブを操作するとチャンネル信号が分配され、この 1/4 インチ TRS 出力から外部ステージモニターに送られます。ここへは外部パワーアンプで増幅されたパッシブステージモニターや、アンプを内蔵したパワーモニターを接続してください。

モニター信号は、**AUX MON** ノブが少しでも上がっている全チャンネルの信号をサミング（ミックス）したものです。ミュージシャンが「俺の音を上げてくれよ、キースンは下げていいから！」と言ってきたら、彼のチャンネルの **AUX MON** ノブを上げてキースのチャンネルを下げます。

全体の出力レベルは **AUX MASTER** フェーダー [46] で調整します。**MAIN MIX/MON1** スイッチ [37] が押されているれば、グラフィック EQ [36] でモニターをイコライジングすることもできます。あるいはこの出力とパワーモニターの間に外部グラフィック EQ を追加してもいいでしょう。こうしてイコライジングすることができるので、近くにあるマイクとハウリングさせにくくすることができます。

このモニター出力は、メインフェーダー [47] やチャンネルフェーダー [30] の影響を受けません。このためモニターミックスを設定してレベルを正しく調整すれば、チャンネルフェーダーやメインフェーダーを操作しても変化することはありません。これが「プリフェーダー」です。

13. FX SEND

すてきな音がするエフェクトやディレイなど、外部エフェクトプロセッサ（FX）に信号を送るときに使える 1/4 インチ TRS ラインレベル出力です。このジャックからの出力は内蔵 FX プロセッサへ送られている信号、つまり **AUX FX** [26] が少しでも上がっている全チャンネルを慎重にミックスしたものの、まさしくコピーです。

（内蔵 FX のプロセッシング済み出力はこのジャックから出てきませんが、内部でメインミックスやモニターミックスに追加されます。）

全体的な出力レベルは **AUX MASTER** ノブ [51] で調整します（このノブは内蔵 FX へ向かう信号のレベルにも作用します）。

この出力は「ポストフェーダー」なので、チャンネルフェーダー [30] を操作すると、外部プロセッサへ向かう信号のレベルも変化します。

外部エフェクトプロセッサからの信号は通常 **STEREO RETURN** [11] または空きチャンネルへ戻し、プロセッシングしていない元のチャンネル（ドライ）とプロセッシング済みのチャンネル（ウェット）を慎重にミックスします。元のチャンネルのフェーダーを上げると、ウェットとドライ両方の信号が微妙な比率を保ったまま増大します。（たとえばリバーブの場合、リバーブ成分と元信号の相対的な比率は維持されます。）

14. MAIN OUT、1/4インチ

この出力はメインミックスを待望の世界へ送り出すものです。アンプへはここから、あるいは **XLRMAIN OUTPUT** [3] から接続してください。

バランス入力へ接続するときは、1/4 インチ TRS（チップ - リング - スリーブ）フォーンプラグを下記の配線で使います。

- チップ = +（ホット）
- リング = -（コールド）
- スリーブ = グランド

アンバランス入力へ接続するときは、1/4 インチ TS（チップ - スリーブ）フォーンプラグを下記の配線で使います。

- チップ = +（ホット）
- スリーブ = グランド

15. FX FOOTSWITCH

フットスイッチを接続する 1/4 インチ TRS コネクターです。つま先で内蔵エフェクトのミュートをオンオフすることができます。シングルボタンのオンオフ型フットスイッチをお使いください。

FX MUTE スイッチ [50] で内蔵エフェクトをミュートしているときフットスイッチは機能しませんが、足をばたばたさせ続けることが何かの役に立つかもしれません。パッドボーイのイメージが出来上がるかもしれません。

16. PHONES

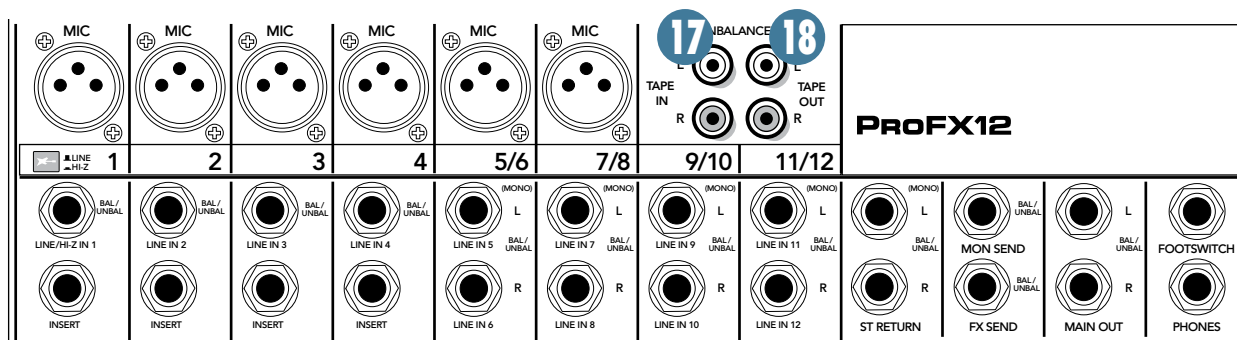
標準的なヘッドフォンを接続すると、かなりの音量でドライブする 1/4 インチ TRS ステレオジャックです。配線は標準的な習慣通りです。

- チップ = L チャンネル
- リング = R チャンネル
- スリーブ = コモングラウンド

このヘッドフォン出力はステレオメインミックスと同じですが、メインフェーダー [47] やグラフィック EQ [36] の影響は受けません。



警告：ヘッドフォンがかなりの音量だと書きましたが、決して冗談ではありません。聴覚に恒常的な異常をきたすほど大きいのです。イヤフォンタイプのものの中には苦痛を感じるほど音が大きくなるものもあります。十分にご注意ください。ヘッドフォンを接続するとき、新しいソースを追加するときなど、何らかの変更するときは必ず事前に **PHONES LEVEL** ノブ [41] を完全に下げてください。



17. TAPE INPUTジャック

ステレオのアンバランス RCA 入力で、業務用のプレイヤー / レコーダーはもちろんセミプロ用の機器も接続できます。またアンバランスのラインレベル出力を持つ CD/DVD プレイヤーや iPod® ドックなど、標準的なソースを接続することができます。

ソースのラインレベル出力を高品質のハイファイ (RCA) ケーブルで接続してください。

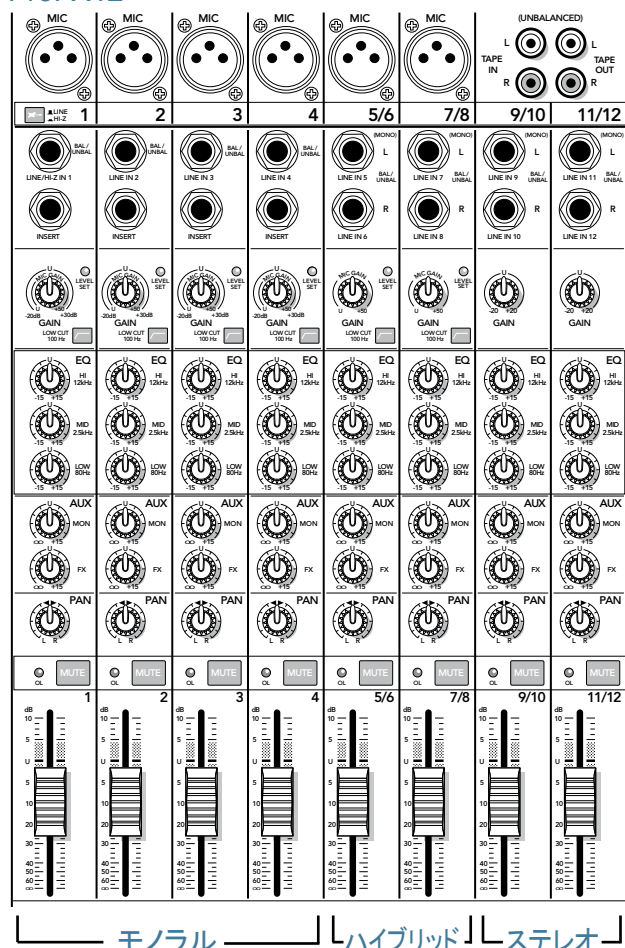
この入力には、幕間で **BREAK** スイッチ [34] を押したときに PA システムに音楽を送るテープや CD などの再生機を接続するためにも使えます。ミキサーに入ってくるレベルは **TAPE LEVEL** ノブ [35] で調整してください。たとえば **BREAK** スイッチを押すと全チャンネルが一度にミュートされ、テープまたは CD がゆっくりレベルを上げながら再生されます。

18. TAPE OUTPUTジャック

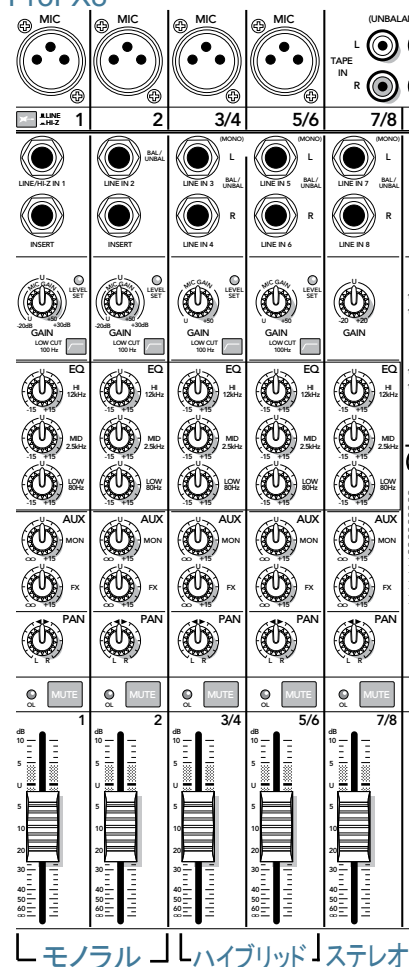
ステレオのアンバランス RCA 出力には、メインのステレオミックスを録音するテープデッキ、ハードディスクレコーダー、CD レコーダーなどを接続してください。このジャックを使えば、バンドが再結成されるかどうかは別にして、昔を懐かしむため、単なる記録、あるいは法的な目的のためなどに録音しておくことができます。

このテープ出力はステレオメインミックスですが、メインフェーダー [47] やグラフィック EQ [36] の影響を受けません。

ProFX12



ProFX8



チャンネルコントロール

縦型のチャンネルストリップはどれもよく似ていて、違いはほとんどありません、各チャンネルは個別に動作し、すぐ上にある入力に接続された信号をコントロールするだけです。チャンネルストリップにはモノラル、ハイブリッド、ステレオという3種類の味わいがあります。

モノラルチャンネル (ProFX12: 1-4) (ProFX8: 1-2)

- モノラルチャンネルのコントロールはモノラルマイク入力とモノラルラインレベル入力の両方に作用します。
- GAIN ノブはマイクとライン両方の入力を調整します。
- 各モノラルチャンネルにはインサートジャックとローカットスイッチがあります。
- チャンネル 1 にはギターを直接接続するための Hi-Z スイッチがあります。
- 3 バンド EQ は Hi と Lo がシェルフ、Mid がピーキングです。

ハイブリッドチャンネル (ProFX12: 5/6, 7/8) (ProFX8: 3/4, 5/6)

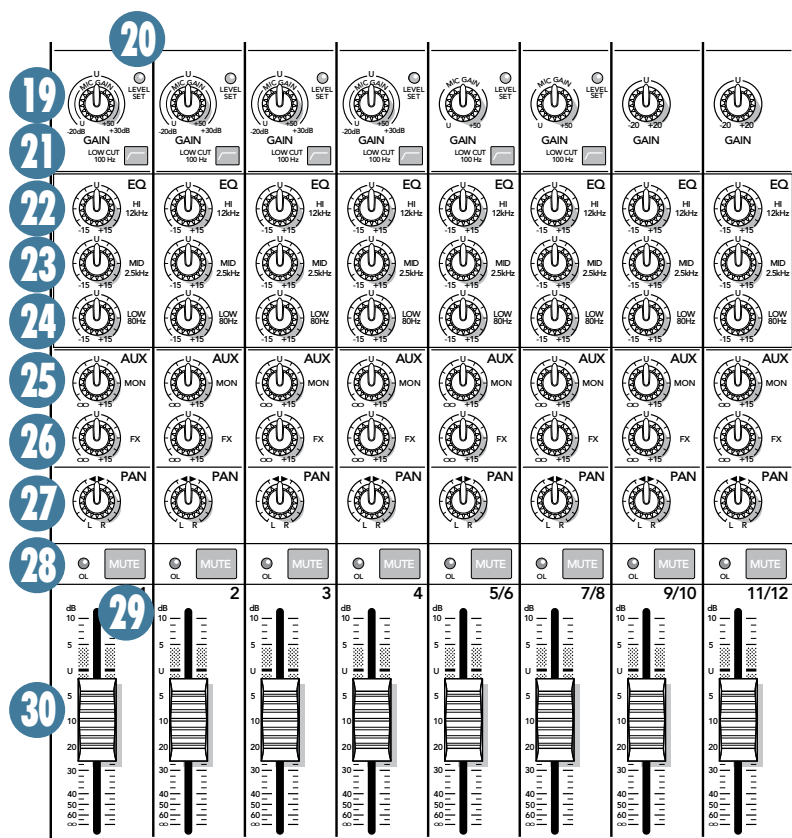
- ゲインとローカット以外のコントロールは、モノラルマイク入力とステレオライン入力に作用します。
- GAIN ノブはマイク入力だけを調整します (ステレオライン入力はユニティゲインに固定されています)。
- ローカットスイッチはマイク入力にだけ作用します。
- モノラルマイク入力は L と R に同じ量だけ分配されます。
- ハイブリッドチャンネルの EQ はモノラルチャンネル同様に 3 バンドです。

ステレオチャンネル (ProFX12: 9/10, 11/12) (ProFX8: 7/8)

- このコントロールはステレオラインレベル入力に作用します。
- GAIN ノブは L と R のライン入力に等しく作用します。LEVEL SET LED やローカットスイッチはありません。
- ステレオチャンネルの EQ はモノラルチャンネル同様、3 バンドです。

Uライク・ユニティ・ゲイン

Mackie のミキサーでは、ほとんどすべてのレベルコントロールに「U」という記号が付いています。これは「ユニティゲイン」、つまり信号レベルが変わっていないことを意味しています。ゲインノブで入力信号を調整したら、すべてのコントロールを「U」に合わせると信号はミキサーを最適なレベルで通過していきます。さらにコントロールのレベルはデシベル (dB) で表示されているので、その設定を変更したときレベルに及ぼす影響がわかるでしょう。



19. GAIN ノブ

まだお読みでないなら、5 ページの「テストミックス」をご確認ください。ゲイン調整は、外の世界から来るさまざまなソース信号を、同じ内部動作レベルに調整するものです。

ゲインは正しく設定してください。プリアンプのゲインが高すぎると歪みが発生する原因になり、低すぎるととても繊細なパッセージがバックグラウンドノイズに消されて聞こえなくなります。



GAIN



LEVEL SET

モノラルチャンネル (モノラルライン入力とマイク入力があるチャンネル) では、GAIN ノブはマイクとライン入力の入力感度を調整します。

GAIN ノブは、LEVEL SET LED [20] が最も音量の高いときに時おり点灯し、音量が低いときは消えているよう調整します。

信号がマイク XLR ジャックから来る場合、ノブを左に回し切るとゲイン 0dB (ユニティの U)、上げ切ると 50dB です。

1/4 インチモノラル入力の場合、このノブを下げ切ると 20dB アッテネートされ、上げ切ると 30dB、12 時方向でユニティゲイン「U」です。20dB のアッテネートはレベルが高い信号を受けるとき、EQ をかなりブーストする必要があるとき、あるいはその両方のときに役立ちます。この「仮想 PAD」がなければチャンネルはクリップしてしまうでしょう。



GAIN



LEVEL SET

ハイブリッドチャンネル (マイク入力とステレオライン入力があるチャンネル) では、GAIN ノブはマイク入力にだけ作用します。



GAIN

ステレオチャンネル (マイク入力がないチャンネル) の場合、GAIN ノブはラインレベルの信号に作用し、範囲は 20dB ゲインから 20dB アッテネートです。このチャンネルには LEVEL SET LED はありません。

20. LEVEL SET LED

GAIN ノブ [19] と併用する LED で、チャンネルプリアンプのゲインを各ソースに対して正しく設定するためのものです。

単数または複数のチャンネルが歪んだときは、LEVEL SET LED を確認してください。この LED が点灯したままになっているときはゲインを下げます。

21. LOW CUTスイッチ

モノラルチャンネルには、100Hz 未満の低域をオクターブあたり 18dB カットする LOW CUT スイッチが付いています。すべてのマイク入力と共にモノラルチャンネルのライン入力にも作用します。

Mackie では、キックドラム、ベースギター、低域をたっぷり含んだシンセパッチ以外のマイクをローカットするようお勧めしています。上記以外のソースにはこれほど低い帯域に聴きたい音は含まれておらず、フィルタリングして排除すれば低域がぱりっとしておいしくなります。そればかりかライブシーンではハウリングを抑え、アンプの電力を節約する役に立ちます。

ローカットには、実際にライブの自由度を上げる側面もあります。ローカットすればボーカルに LF イコライザーを安全にかけることができます。ボーカルにとって低域シェルビング EQ は本当に役立つことが多いのです。問題は LF EQ をブーストすると、ステージ上のノイズやマイクを扱うときのノイズ、呼吸のポップノ

イズなどもブーストされてしまうことです。ローカットすればこうした問題はすべて排除され、ウーファーを飛ばすことなく LF EQ をかけることができます。

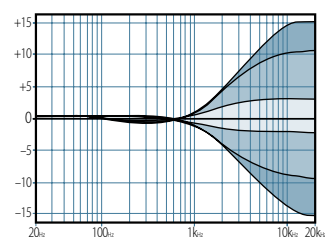
3バンドイコライザー (EQ)

ProFX の全モノラルチャンネルには、慎重にポイントを選んだ 3 バンドイコライザーがあります。80Hz の Lo シェルビング、2.5kHz の Mid ピーキング、12kHz の Hi シェルビングです。シェルビングとは、特定の周波数より上または下のすべての周波数をブーストまたはカットするものです。たとえば Lo EQ ノブを 15dB まで回すと、80 Hz 未満の耳には聞こえない最低音までをブーストされます。ピーキングとは、中心周波数 - Mid の場合 2.5kHz - を囲む特定の周波数範囲が「丘」を形作るものです。

以下のグラフは周波数 vs 信号レベルで各周波数帯域の EQ 調整が持つ全体的な作用を近似値で示しています。

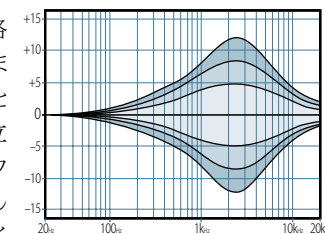
22. HI EQ

12 kHz より高い以上の帯域を 15dB までカットまたはブーストし、クリックの位置で (ブーストもカットもしていない) フラットです。シンバルの輪郭をはっきりさせたり、全体の透明感を増したり、キーボードやボーカル、ギター、ペーコンを焼く音のエッジを際立たせるときにお使いください。シビランスやテープヒスを減らすときはわずかにカットしてください。



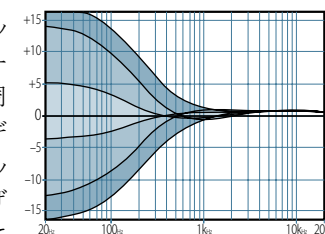
23. MID EQ

MID は「ミッドレンジ」の略で、2.5kHz を中心に 15dB までブーストまたはカットすることができ、センタークリックの位置でフラットです。特定のサウンドを定義する周波数がほとんどこの帯域にあることから、よくミッドレンジ EQ は最も劇的だと考えられます。このノブを上下すると、興味深いサウンドを作ったり有用な変化をもたらすことができます。

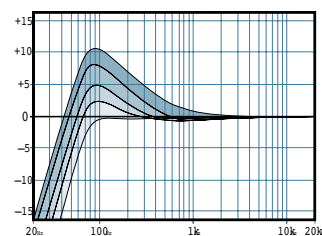


15. LOW EQ

80Hz 未満を 15dB までカットまたはブーストし、センタークリックでフラットです。この周波数はバスドラムやベースギター、豊かな音のシンセパッチ、朝食に生の牛肉を平らげると大御所男性シンガーの声にパンチを加えます。



Low Cut スイッチ [21] と併用すると、ミックスに周波数が低いながらも音を大量に突っ込むことなく低域がブーストできます。



イコライジングの節度

EQ をかけすぎるとサウンドが台無しになることがあります。EQ 回路は大量にカットまたはブーストできるよう設計されていますが、それは必要とされる場合があるからです。しかしすべてのチャンネルで EQ を最大にすると、どろどろしたミックスになるでしょう。微妙にイコライジングし、ノブは右側にする (ブースト) のと同様、左側にも回しましょう (カット)。エンジニアが EQ を 3dB 以上かけたプラチナアルバムはめったにありません。それ以上にかかる必要があるときは、マイクの位置を変える (またはマイクそのものを取り替える) など、通常他にもっといい方法があります。

25. AUX MON ノブ

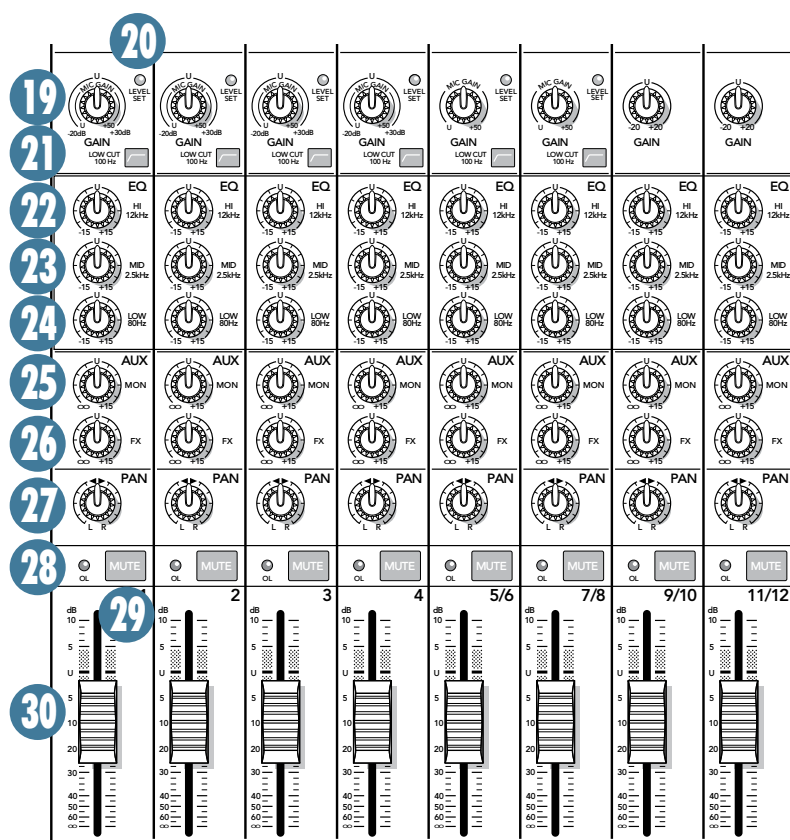
チャンネル信号の一部を分配して、メインミックスから独立したすばらしいステージモニター送りのミックスを設定するためのノブです。バンドのメンバーがステージモニターミックスを気に入るまで、各チャンネルの AUX MON ノブを調整してください。

ハイブリッドやステレオのチャンネルから送られてくる AUX モニターは、チャンネルの L と R がモノラルさミングされます。

このノブは反時計回りに回し切ると完全なオフ、センタークリックの位置でユニティゲイン、時計回りに回し切ると 15dB ゲインです。

PAN [27]、MUTE [29] やチャンネルフェーダー [30] がモニター出力に影響することはありませんが、他のチャンネルコントロールは作用します。この AUX MON はプリフェーダーです。

MON SEND ジャック [12] からのモニター信号は、AUX MON の部がわずかでも上がっている全チャンネルをサミングしたものです。全体的な出力レベルは AUX MASTER フェーダー [46] で操作しますが、MAIN MIX/MON スイッチ [37] を押してあるときは、グラフィック EQ [36] でモニターをイコライジングすることができます。INTERNAL FX ノブ [53] で内蔵 FX をモニターミックスに加えることもできます。



26. AUX FX

チャンネル信号の一部を分配して、内蔵 FX に、あるいは FX センド [13] を通して外部エフェクターに送るすばらしい FX ミックスを設定するためのノブです。

ハイブリッドまたはステレオのチャンネルから送られる AUX FX は、そのチャンネルの L 側と R 側がサミングされたものです。

ノブを反時計回りに回し切ると完全なオフ、センタークリックでユニティゲイン、時計回りに回し切ると 15dB ゲインです。

この FX 出力には、MUTE スイッチ [29] とチャンネルフェーダー [30] をはじめ他のチャンネルコントロールは作用しますが、PAN [27] は作用しません。AUX FX はポストフェーダーです。

内蔵 FX プロセッサーと FX SEND ジャックに向かう FX 信号は、わずかでも AUX FX ノブが上がっている全チャンネルの信号をサミング (ミックス) したものです。

全体的な FX 出力レベルは AUX MASTER FX フェーダー [45] で調整します。メインミックスに加える内蔵 FX のレベルは FX to MON ノブ [53] で上げることができます。

27. PAN

出力の左と右に送るチャンネル信号の比率を調整するノブです。モノラルチャンネルではパンポットとして機能します。ハイブリッドとステレオのチャンネルでは、ホームオーディオ機器のバランス機能に近い動作をします。AUX MON や FX ミックスには影響しません。

28. OL LED

この LED はチャンネルの入力信号レベルが高すぎ、過負荷による歪みの原因になる可能性があるときに点灯します。

この LED は回路上チャンネルフェーダー [30] の前にあるため、OL LED を消そうとしてフェーダーを下げてでも効果はありません。

過負荷は GAIN ノブ [19] の設定が高すぎると発生することがあるので、LEVEL SET LED [20] がひんぱんに点灯していないか確認してください。EQ の設定もほどほどであることを確認してください。不要な低域のノイズやショック音などが過負荷の原因になっているときは、LOW CUT スイッチ [21] を使ってください。

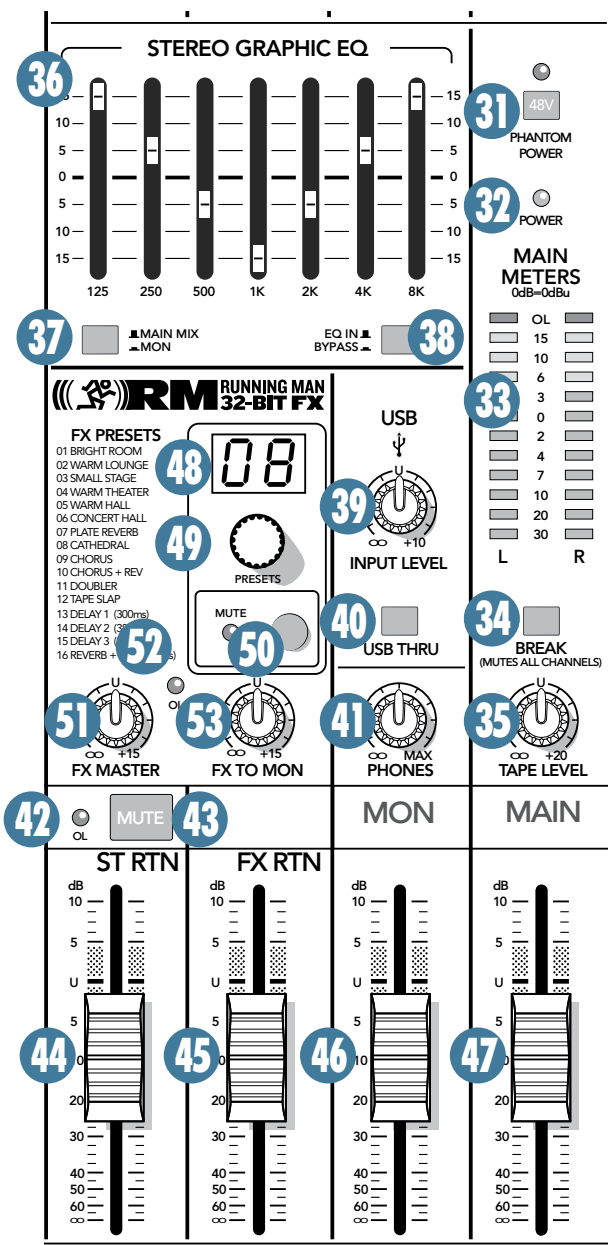
29. MUTE スイッチ

メインミックスでそのチャンネルをミュートしたいときは、このスイッチを押してください。そのチャンネルの AUX MON 出力はミュートされませんが、内蔵 FX プロセッサーへの FX 出力や FX SEND ジャック [13] はミュートされます。INSERT ジャック [8] はミュートされても信号を出力し続けます。MUTE スイッチを押したチャンネルでは OL LED [19] が点灯します。

23. チャンネルフェーダー

チャンネルのレベルを OFF からユニティゲイン、そして 10dB の追加ゲインまで調整するものです。モノラルチャンネルにはモノラルフェーダー、ハイブリッドとステレオのチャンネルにはステレオフェーダーが付いています。

GAIN ノブ [19] が正しく設定されていれば、フェーダーはユニティゲイン (U) 付近になるはずですが。



マスターコントロール

31. PHANTOMスイッチ

マイクにファンタム電源が必要な場合は、このスイッチを押してミキサーの全 XLR マイク入力にファンタム電源を供給してください。これでミキサーは低い電流の直流電圧を、音声伝送と同じ心線を使って、マイクのエレクトロニクスに送ります。

多くの現代的な業務用コンデンサーマイクには、ミキサーから音声を伝送する心線そのもので送られる低電流の直流電圧、ファンタム電源が必要です（半民生モデルのコンデンサーマイクでは同じ目的のために電池をつかうこともあります）。「ファンタム」（お化け）という名前の通り、外部電源を必要としないダイナミックマイク（SHURE SM57 や SM58 など）は見ることもなく、影響を受けることはありません。

ファンタム電源を供給しているとき、シングルエンド（アンバランス）のマイクやリボンマイクをマイク入力に接続しないでください。安全であるという確信がない限り、ファンタム電源が供給されているマイク入力に楽器の出力を接続しないでください。

32. POWER LED

ミキサーに電源を接続して、リアパネルの POWER スイッチ [2] を押すと、この LED が点灯します。

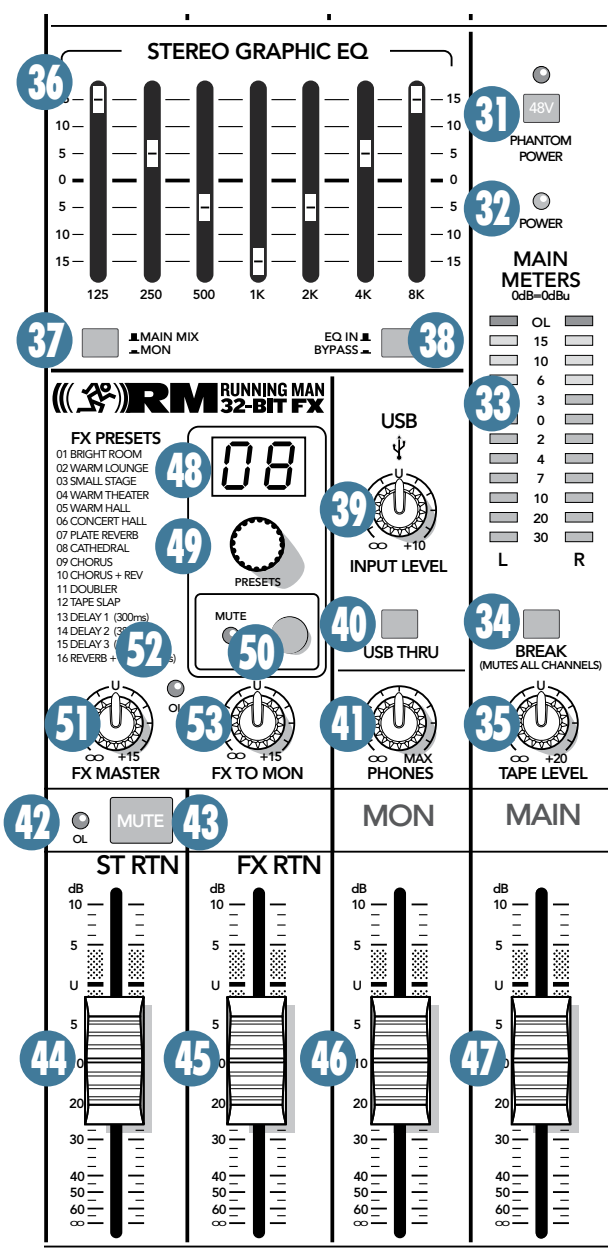
この LED が点灯しないときは、電源コードが両端とも正しく接続されているか、コンセントに電源が来ているか、ミキサーの POWER スイッチ [2] がオンになっているか、確認してください。

33. メーター

12 個の LED が 2 列に並んだピークメーターで、-30 から +15 まで dB 単位の見盛りがあり、OL（過負荷）まで並んでいます。このメーターはメインフェーダー [47] の後ろにあり、メインミックス出力におけるステレオ信号の強さを表示します。

一般的にこのメーターが 0 と +3 の間になるよう調整します。OL は時折点灯する程度ならかまいませんが、ひんぱんに点灯するあるいは点灯したままになった場合は、メインフェーダーを下げて時々点滅するか点灯しないよう調整してください。

メーターは、レベルが「敷地」からはみだしていいことを確認するための、ただのツールです。じっと睨みつけている必要ありません（そうしていたければ別ですが）。



34. BREAKスイッチ

この重要な「一休み」スイッチは、幕間などですべてのマイクとラインレベルの入力を素早くミュートするものです。これでバンドの入れ替え時間中などに文句を言いたい人やしようもないカラオケファンがステージを襲うことはなくなるでしょう。MON SEND [12] と FX SEND [13] は影響を受けません。システムから音が出ないトラブルが発生したときは、このスイッチを最初に確認してください。

このスイッチを押しても、RCA の TAPE INPUT [17] をメインミックスで再生したり、USB 入力からコンピューターの音声を再生することができます。たとえばバンドがステージから降りるとき、心洗われる CD を流すこともできます。

35. TAPE LEVELノブ

TAPE INPUT に入ってくる信号の入力レベルを調整するものです。便利なように BREAK スイッチ [34] の近くにあるので、バンドが休憩しているときに全チャンネルを素早くミュートし、BGM を引き込むことができます。

36. STEREO GRAPHIC EQ

メインミックスの出力を調整する 7 バンドのグラフィックイコライザーです。ラインレベル出力 [3, 14] に作用しますが、ヘッドホン出力 [16]、テープ出力 [18]、USB 出力 [4] には作用しません。MAIN MIX/MON スイッチ [37] を押すと、メインミックスではなくモニターミックスに EQ をかけることができます。また EQ IN/BYPASS スイッチ [38] で素早くバイパスすることもできます。

スライダーでそれぞれの周波数帯域のレベル調整で、ブースト/カットは最大 15 dB、中心 (0 dB) にするとレベルは変化しません。周波数帯域は 125、250、500、1k、2k、4k、8kHz です。

EQ セクションは回路上メインフェーダー [47] やメインメーター [33] の前にあります。チャンネル EQ 同様、気を楽にして調整しましょう。大量に調整したり慎重さが足りないと、本来のデリケートなバランスを台無しにしてしまいます。スライダーを下げるのはクールじゃないと思われるかもしれませんが、EQ においてはたいていの場合で最高の選択です。望ましい帯域を持ち上げるより、耳障りな帯域を下げましょう。ハウリングを起こした周波数帯域を下げるために使うこともできます。

37. MAIN MIX/MONスイッチ

ステレオグラフィック EQ [36] を L-R メインミックスとモニターのどちらにかけるかを選択するスイッチです。たとえば近くのマイクとモニタースピーカーの間でハウリングを減らしたいときは、グラフィック EQ をモニターミックスに賢く使うといいでしょう。

38. EQ IN/BYPASSスイッチ

ステレオグラフィック EQ [36] を素早くオン/オフするスイッチです。EQ の設定を素早くチェックしたり、EQ を使わないときにシグナルパスを短くするために使います。

39. USB INPUT LEVELノブ

USB ポート経由で入ってくるコンピューターからの 2 チャンネルの信号レベルを、他のチャンネルのミックスに相対して調整するものです。

Traction などオーディオソフトからの音声、楽器単体のトラック、複数トラックのミックス、プロセッシングしたトラックなどを USB 入力で受けることができます。

40. USB THRU

このスイッチを押してあるとき、他チャンネルのミックスに加えて、コンピューターからの任意の入力をコンピューターへの USB 出力に含めることができます (このスイッチはコンピューターの出力にだけ作用し、ヘッドフォンやメインミックスには影響しません)。

- このスイッチが突き出した位置のとき、コンピューターへの USB 出力はメインミックスだけです。オーバーダビングのときに良い設定でしょう。コンピューターからメインスピーカーやヘッドフォンにプレイバックを再生し、ギターを演奏していればギターだけを USB 経由で録音します。またハウリングに対するセーフガードとしてライブレコーディングする場合にも良いでしょう。ここでは USB LEVEL ノブも下げておいてください。
- このスイッチを押すと、コンピューターへの USB 出力はメインミックスにコンピューターから来た音声が含まれます。これはコンピューターから再生する音声を一部に使っているライブの本番を録音するときに良いでしょう。

41. PHONES レベルノブ

このコントロールは OFF から最大ゲインまで、ヘッドフォンの出力ボリュームを調整するものです。



警告！ このヘッドフォンアンプは、標準的なヘッドフォンをかなりの音量でドライブできるよう設計されています。恒常的な聴覚異常の原因になる可能性があります。中程度のレベルでもヘッドフォンによっては苦痛を感じるほど音が大きくなるものもあります。十分にご注意ください。ヘッドフォンを接続するとき、新しいソースを追加するときなど、何らかの変更するときは必ず事前に PHONES LEVEL ノブ [41] を完全に下げてください。

42. OL LED (ステレオリターン用)

STEREO RETURN 入力 [11] に入ってきた信号が高すぎて過負荷による歪みの原因になる可能性があります。点灯します。

この LED はステレオリターンフェーダー [44] の手前にあるので、OL LED を消そうとしてフェーダーを下げてても効果はありません。

外部プロセッサーや他のデバイスをチェックして、この LED が点灯しなくなるまでそのレベルを下げてください。

43. MUTE スイッチ (ステレオリターン用)

このスイッチを押すと、STEREO RETURN 入力 [11] から入ってくる信号がミュートされます。

44. ステレオリターンフェーダー

この忠実なるフェーダーは、STEREO RETURN 入力 [11] に入ってくる外部プロセッサーなどの機器からの音声レベルを調整するものです。この音声はメインミックスに追加され、ステレオリターン用の MUTE スイッチ [43] でミュートされます。

一般にこのフェーダーは U マーク付近で生かしておき、外部デバイスの出力コントロールもその機器でいうユニティゲインにしておきます (エフェクター、CD プレイヤー、ドラムマシンなど何でもかまいませんが、その取扱説明書で確認してください)。この設定で音が大きすぎるあるいは小さすぎるときは、ミキサーではなくデバイスの出力で調整してください。この方法ならフェーダーを U マーク付近にしておけます。このフェーダーの調整範囲は OFF から +10dB です。

45. FX リターンフェーダー

このフェーダーは、メインミックスに追加する内蔵 FX プロセッサーのステレオ出力のレベルをゆるやかに調整するものです。調整範囲は OFF から +10dB で、U の位置でユニティです。

46. モニターフェーダー

このフェーダーは、ステージモニターに送るモニターセンド出力の全体的なレベルを調整するものです。

慎重に調整して、バンドがそのレベルで満足しているかを確認してください。調整範囲は OFF から +10dB で、U の位置でユニティです。

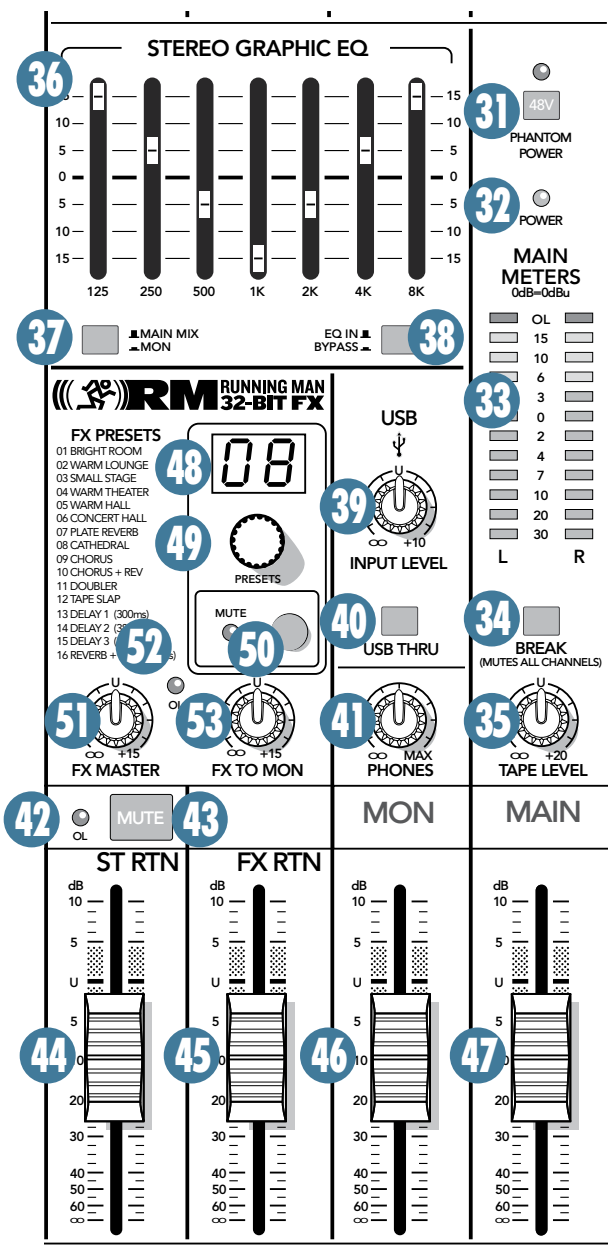
47. メインフェーダー

このフェーダーは、メインミックスのレベルを調整するもので、メーター [33] とラインレベルの MAIN OUT [3、14] に作用します。このレベル調整はシグナルパス上、ステレオグラフィック EQ [36] の後ろにあります。

メインフェーダーはオーディエンスに対する最大のコントロール機能です。メーターをしっかりと見ながら、(もしもいるなら) オーディエンスが満足するレベルになっているか聴きながら、このフェーダーは慎重に操作してください。

このコントロールは MON SEND [12]、PHONES OUT [16]、USB OUTPUT [4] には作用しません。

このフェーダーを下げ切るとメイン信号はオフ、U の位置でユニティゲイン、いちばん上で 10dB ゲインです。ふつうはこのおまけゲインをあてにすることはありませんが、あるということを知っておくと良いでしょう。このフェーダーはステレオで、メインミックスの L と R の両方に等しく作用します。「すばらしいフェードアウト」にしたいとき、歌の最後でゆっくり下げるのに理想的な制御機能です。



ステレオエフェクトプロセッサ

Mackie のランニングマン 32bit 内蔵エフェクトプロセッサは、モノラル入力でステレオ出力のプロセッサで、16 のプリセットを持っています。各チャンネルの AUX FX ノブ [26] で送るレベルを調整します。FX プロセッサに入る信号の全体的なレベルは FX マスターノブ [45] で調整し、レベルが高すぎると OL LED [52] が点灯します。

48. プリセットディスプレイ

選択されているエフェクトプリセットの番号を表示します。プリセット番号はフロントパネルにシルク印刷されています。

49. プリセット セレクター

このノブを回してプリセット番号を進めたり戻したりします。使用可能なエフェクトは次ページの表とフロントパネルのシルク印刷の通りです。

50. FX MUTE

このスイッチを押すと、内蔵 FX プロセッサがミュートされます。その出力はメインミックスにもモニターにも現れず、とりにある LED が点灯します。この状態ではフットスイッチを接続していても機能せず、フットスイッチではミュートあるいはミュート解除することができなくなります。

このスイッチが押されていないとき、内蔵 FX プロセッサはフットスイッチでミュートあるいはミュート解除することができます。

51. FX マスター

このノブで内蔵 FX プロセッサに入る信号のレベルを調整します。内なる魔法の目で隣の OL LED [52] を見ながら、内蔵 FX プロセッサが過負荷にならないよう慎重に調整してください。

下げ切ったとき OFF、12 時方向でユニティゲイン、上げ切ったとき 15dB ゲインです。

このノブは FX SEND [13] から出て行く信号のレベルにも影響します。

52. OL LED

この LED は、強すぎる信号によって内蔵 FX プロセッサが過負荷になろうとしているとき点灯します。この LED が点灯したら FX マスター [51] を下げてください。

プロセッサに入る信号はチャンネルの AUX FX ノブ [26]、チャンネルフェーダー [30] の影響も受けます。これらのコントロールを調整し直したときはこの LED も確認してください。

53. FX TO MON

このノブが内蔵 FX プロセッサの出力をステージモニターミックスに追加するものです。下げ切ったとき OFF、12 時方向でユニティゲイン、上げ切ったとき 15dB ゲインです。

No.	タイトル	詳細	使用例
1	BRIGHT ROOM	トーンは明るめの、反射音が拡散するスペースで、固く反射しやすい壁をシミュレートしています。	ボーカルをミックスで浮き立たせる明るいリバーブです。アコースティック楽器にかけるとライブ感が増します。
2	WARM LOUNGE	中程度の広さのルーム/ラウンジをシミュレートしていて、中低域を少しだけ強調した温かみのあるトーンです。	広がりのある「ウェット」なボーカルが求められる曲に最適です。明るいホーンセクションにかけると耳障りにならず広がりを持たせることができます。
3	SMALL STAGE	中程度のリバーブタイムと残響を持つ小さいコンサートステージをシミュレートしたプリセットです。	アップテンポのボーカルやギター、エネルギッシュな曲にかけると、ライブ感のあるリバーブになります。
4	WARM THEATER	どっしりした音で中程度の長さのリバーブが特徴で、劇場空間の響きをシミュレートしています。	ボーカル、ドラム、アコースティック/エレクトリックギター、キーボード、その他に適しています。
5	WARM HALL	広々として居心地が良く、ドレープやカーペットに囲まれたコンサートホールをシミュレートしたリバーブで、とても暖かみのあるサウンドです。	近接マイクで録音されたオーケストラ楽器にかけると、コンサートホールの自然なアンビエンスを追加することが可能です。
6	CONCERT HALL	大きく広がりのあるサウンドや長いブリディレイ、響き渡るトーンといった特徴を持つホールの残響をシミュレートしたリバーブです。	ソロ、オーケストラ、コーラスに関わらず、アコースティック楽器やボーカルに生命感を与えます。
7	PLATE REVERB	金属プレートの子ンテージリバーブマシンをエミュレートしたプリセットです。大量の初期反射音が特徴で、ブリディレイはありません。	スネアドラムやタイトなボーカルアレンジなど、パーカッシブなサウンドに深みを与えるのに最適です。
8	CATHEDRAL	石壁のかなり大きな礼拝堂のような、残響が長く拡散の、密度が高く、また長いブリディレイと反射音の特徴とするリバーブです。	コーラス、管楽器、オルガン、ソフトなアコースティックギターに驚くほどの深みを与えます。
9	CHORUS	ソフトで微妙なスワイプエフェクトを生み出すプリセットで、特定のサウンドに厚みを加えてミックスの中で際立たせるときに有用です。	エレクトリック/アコースティックのギターやベースに最適です。特にハーモニーやコーラスといったボーカルに劇的な効果を与えます。
10	CHORUS + REV	上記のコーラスエフェクトと大きな空間のリバーブエフェクトの見事なコンビネーションのプリセットです。	コーラスエフェクトによってサウンドに厚みを加わると同時に、スムーズなリバーブによって温かみと広がり感が追加されます。
11	DOUBLER	ボーカルや楽器などをマルチトラックレコーダーで2回重ね録りしたサウンドをエミュレートしたエフェクトプリセットです。	微妙に音が残る続けることなく、コーラスエフェクトに似たビブラートが得られます。
12	TAPE SLAP	オリジナルのシグナルに比較的短いディレイが一度だけかかります。ディレイサウンドはビンテージのテープエコーのような温かいトーンです。	ボーカルにやギターに1950年代のフィーリングが求められるとき使用されます。あるいは単に「12」という数字がお好きな方にもよく使われます。
13 14 15	DELAY 1 (300msec) DELAY 2 (380msec) DELAY 3 (480msec)	ディレイのプリセット3種類です。デフォルトのディレイタイムはそれぞれmsecで表示されています。数字が小さいほどディレイが速くなります。	密度が高くアップビートのロックなどで、ミックスに切り込みたいときにかかるディレイです。
16	REVERB + DLY (250MS)	リバーブエフェクト (Warm Theater) に3回くり返されるディレイエフェクトを組み合わせたプリセットです。	ボーカルに深みを与えると共に空間を広げます。エレクトリックギターの空間系エフェクトとしても最適です。

付録A: サービス情報

ProFX ミキサーに異常があると思われた場合、以下のチェックリストを参考にして、実際に不具合が生じているのかどうかでできるだけ確認してください。また、ウェブサイト (www.mackie.com/support) もご覧ください。FAQ や文書、ユーザーフォーラムなど、役立つ情報が満載です。問題が解決し、修理に出さずに済むかもしれません。

トラブルシューティング

チャンネルに問題がある...

- チャンネル EQ は適度な設定になっていますか。
- ゲインは適切に設定されていますか。
- フェーダーは上がっていますか。
- チャンネルの OL LED が点灯していませんか。
- インサートしている機器を外してみてください。
- 問題があるチャンネルのソースを他のチャンネルに接続し、同じ設定にして確認してください。

出力に問題がある...

- 関連するフェーダーは上がっていますか。
- メインメーターや内蔵 FX の OL LED が点灯していませんか。
- メイン出力の一方に問題があるときは、他のすべてを外してみてください。たとえば 1/4 インチ L 側のメイン出力がおかしいときは、RCA ピンと XLR の L 側を外してみてください。これで問題が解決した場合、原因はミキサーではありません。
- ステレオペアの場合は L と R を入れ替えてみてください。たとえば L 出力がおかしいと思われるときは、L と R のケーブルをミキサー側で入れ替えてみます。問題のある側が入れ替わったとき、原因はミキサーではありません。

ノイズ...

- チャンネルのゲインとフェーダーを 1 つずつ下げてください。ノイズが消えればそのチャンネルまたは接続された機器に問題があるようなので、接続しているものを外してください。これでノイズが消えれば原因はそこにあります。

電源...

- このミキサーは、電源を受けているコンセントに接続して電源スイッチを入れるとオンになります。電源が入らない場合は、電源コードに異常がないか確認してください。

付録 B: 接続コネクタ

XLRコネクタ

Mackie のミキサーは、全マイク入力に 3 ピンの XLR メスコネクタを使用しています。1 番ピンはグラウンド（アース）接続されたシールドに、2 番ピンは音声信号の「プラス」（ホットまたは陽極）に、3 番ピンは音声信号の「マイナス」（コールドまたは陰極）に、それぞれ接続されています（図 A）。

いわゆるマイクケーブルと呼ばれるものの片側に付いている XLR オスコネクタを、この XLR メスコネクタに接続します。

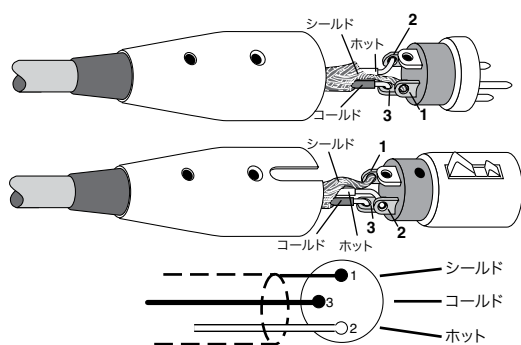


図 A : XLR コネクタ

1/4 インチ TRS コネクタ

TRS は「チップ - リング - スリーブ」の略で、接点を 3 つ持つステレオ 1/4 インチまたはバランス型のフォンジャック（プラグ）です（図 B）。

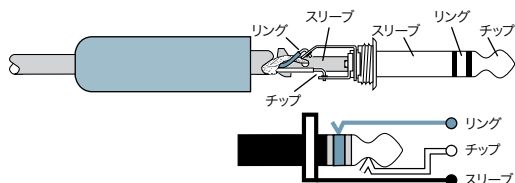


図 B : 1/4 インチ TRS プラグ

TRS ジャック（プラグ）は色々な用途に用いられます。

- バランスのモノラル回路：バランスコネクタとして配線する場合は、1/4 インチ TRS ジャック（プラグ）のチップを信号のプラス（ホット）に、リングをマイナス（コールド）に、スリーブをグラウンド（アース）に接続します。
- ステレオヘッドフォン、まれにステレオマイクロフォンやステレオライン接続：この場合、1/4 インチ TRS ジャック（プラグ）のチップは L チャンネルに、リングは R チャンネルに、スリーブはグラウンド（アース）に配線します。
Mackie のミキサーにシングルプラグのステレオマイクを直接接続することはできません。ステレオマイクは LR 別々のケーブルで 2 つのマイクプリアンプに接続してください。
- アンバランス型センド&リターン回路：この場合、Y 型コネクタとして配線します。1/4 インチ TRS ジャック（プラグ）のチップをミキサーからの出力であるセンドに、リングをミキサーへの入力であるリターンに、スリーブをグラウンド（アース）に接続します。

1/4 インチ TS コネクタ

TS は「チップ - スリーブ」の略で、2 つの接点を持つモノラル 1/4 インチフォンジャック（プラグ）です（図 C）。

TS ジャック（プラグ）も多くの用途に使われますが常にアンバランスです。チップは音声信号に、スリーブはグラウンド（アース）に接続されます。下記に使用例をいくつかご紹介しましょう。

- アンバランスのマイクロフォン
- エレクトリックギター、電子楽器
- アンバランスのラインレベル接続

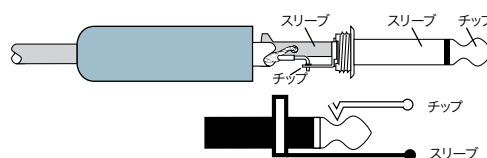


図 C : TS プラグ

- スピーカーの接続

ギターコードをスピーカーケーブルとして使わないでください。ギターコードはスピーカーレベルの信号を送るよう設計されておらず、過熱する原因になります。

RCA コネクタ

RCA タイプのプラグ（フォノプラグとも呼ばれます）とジャックはホームステレオやビデオ機器によく見られますが、その他にも多くの用途に使われています（図 D）。このコネクタはアンバランスで、電気的には 1/4 インチ TS フォノプラグ（ジャック）と同じです（図 C）。中央のピンに信号を、周囲にグラウンド（アース）またはシールドを接続してください。

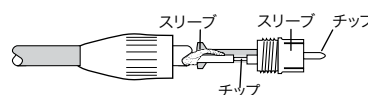


図 D : RCA プラグ

TRSセンド/リターンインサートジャック

Mackie のシングルジャックインサートは、3 接点の 1/4 インチ TRS フォーンタイプです。アンバランスですが、1 つのコネクタでミキサー出力（センド）とミキサー入力（リターン）、両方の信号を伝送します（図 E）。

スリーブは両方の信号のコモングラウンド（アース）です。ミキサーからのセンドはチップから外部機器に送られ、リングから戻ります。

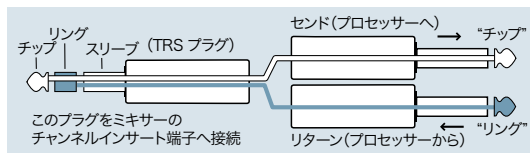


図 F

インサート端子をセンドのみに使用

TS (モノラル) 1/4 インチプラグを、Mackie のインサートジャックに半分だけ（最初にかちつと音がするところまで）差し込むと、ジャックのスイッチは作動しないので回路のインサートループは開きません。（このためチャンネル信号はそのままミキサー内をぐるぐる回り続けます。）

この方法で通常動作を妨げることなく、チャンネル信号をインサート端子から取り出すことができます。

TS (モノラル) 1/4 インチプラグを完全に（2 回目のかちつという音がするところまで）押し込むと、ジャックスイッチが開いてダイレクト出力が生成されます。このとき、ミキサーの内部ではそのチャンネルの信号は遮断されます（図 G）。

NOTE : ミキサーが出力している信号を過負荷またはショートさせないでください。内部信号にも影響を及ぼします。

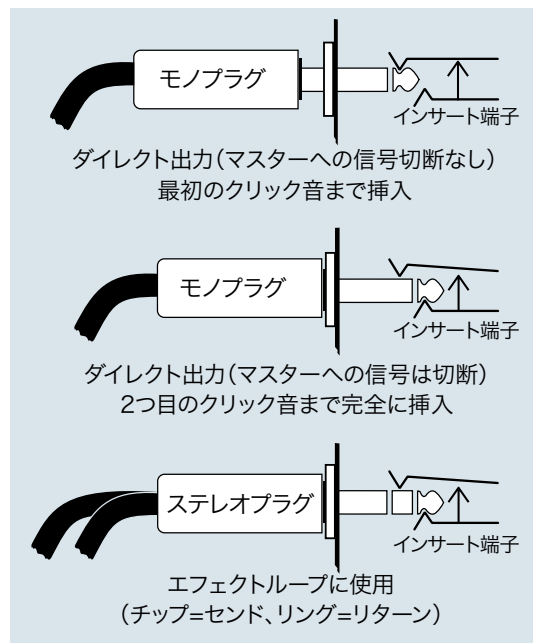


図 G

Mackieのステレオ入力とリターン (モノラル、ステレオの両方に対応)

ステレオライン入力とステレオリターンは、頭痛のたねを最小限にしながら最大の柔軟性を与える Mackie 哲学（まだできたばかりです）の良い例です。この入力とリターンは、ジャックの使い方によって自動的にモノラルまたはステレオになります。どう機能するかというと ...

モノラル信号は L (MONO) と表示された入力またはリターンのジャックにだけ接続してください。信号はリターン回路の L と R の両側にルーティングされ、アサインされたステレオバスのセンターに現れ、PAN ノブでパンニングすることもできます。

R 側のジャックに接続したステレオ信号は、R バスにしか現れません。この洗練された効果を使うのは、特別な場合だけです。

付録 C: 技術情報

仕様

ノイズ:

20Hz ~ 20kHz、ソースインピーダンス 150 Ω、入力ノイズ相当

マイク→インサートセンド出力、最大ゲイン
残留出力ノイズ -125dBu

全出力、マスター OFF、全 ch OFF -95dBu

全出力、マスターユニティ、全 ch OFF -85dBu

全出力、マスターユニティ、1ch ユニティ -85dBu

歪率:

20Hz ~ 20kHz、THD+N、SMPTE IMD

マイク入力→メイン出力 0.03% 未満 @ +4dBu 出力

CMRR:

マイク入力→インサートセンド出力

@1kHz 70dB

周波数特性:

マイク入力→任意出力、ユニティゲイン)

20Hz ~ 30kHz +0dB/-1dB

クロストーク:

20Hz ~ 20kHz

隣接入力間 @ 1kHz -90dB

入力→出力 @1kHz -90dB

フェーダーオフ @ 1kHz -75dB

ミュート / ブレークスイッチミュート @ 1kHz -100dBu

最大レベル:

全入力 +22dBu

メインミックス XLR +28dBu

他全出力 +22dBu

インピーダンス:

マイク入力 3k Ω

チャンネルインサートリターン 10k Ω

他全入力 20k Ω

テープ出力 1.1k Ω

ヘッドフォン出力 25 Ω

他全出力 120 Ω

最大電圧ゲイン (EQフラット):

マイク入力チャンネル→

インサート出力 50dB

テープ出力 60dB

USB 出力 50dB

1/4 インチメイン出力 70dB

XLR メイン出力 76dB

モニターセンド 75dB

FX センド 90dB

モノラルライン入力チャンネル→

インサート出力 30dB

テープ出力 40dB

USB 出力 30dB

XLR メイン出力 46dB

モニターセンド 45dB

FX センド 60dB

テープ入力→

テープ出力 20dB

USB 出力 10dB

XLR メイン出力 36dB

USB 入力→

テープ出力 10dB

USB 出力 0dB

XLR メイン出力 26dB

エフェクトリターン→

テープ出力 10dB

USB 出力 0dB

XLR メイン出力 26dB

モニターセンド 25dB

チャンネルイコライザー:

ローカット 100Hz, -18dB/oct

High シェルビング ± 15dB@12kHz

Midピーキング ± 15dB @2.5kHz

Low シェルビング ± 15dB @ 80Hz

デジタルエフェクト

I/O モノラル入力 / ステレオ出力

プリセット数 16

チャンネルレベル設定LED:

0dBu (通常動作レベル)

チャンネルOL LED:

チャンネルクリップ手前 -1dB

ポスト EQ、プリフェーダーで測定

メーター:

メイン L/R ミックス

12 セグメント × 2 列

OL (+20dBu), +15, +10, +6, +3, 0 (0dBu), -2, -4, -7, -10, -20, -30

7バンドグラフィックEQ

中心周波数 125, 250, 500, 1k, 2k, 4k, 8kHz

ゲイン ± 15dB

メインまたはモニターにアサイン可能 / バイパス可能

USB:

フォーマット USB 1.1

I/O ステレオ入力、ステレオ出力

A/D/A 16bit, 44.1kHz/48kHz

ファンタム電源:

48VDC, 全マイク入力に一括供給

必要AC電源:

消費電力 40W (ProFX8)

45W (ProFX12)

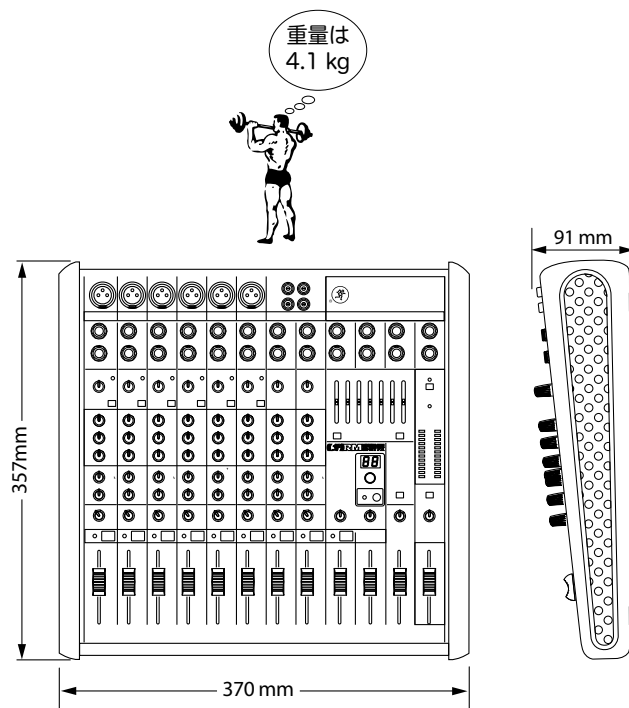
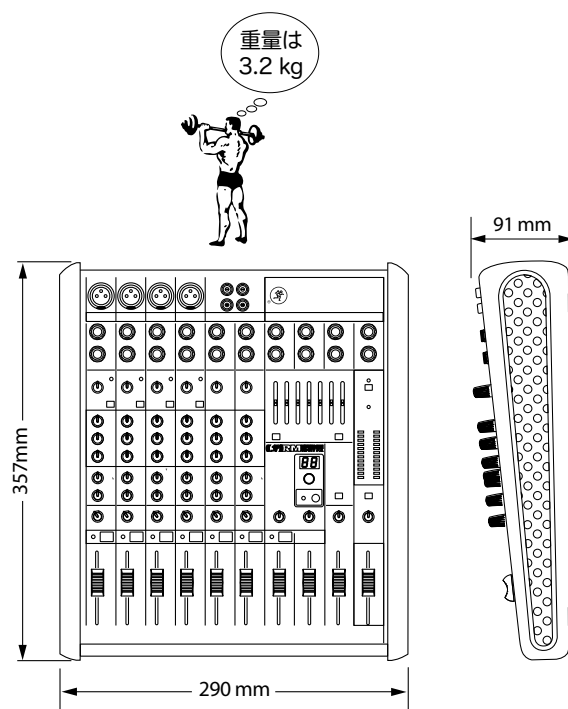
ユニバーサル電源部 100VAC ~ 240VAC, 50 ~ 60 Hz

電源コネクタ 3 ピン IEC

寸法/重量:

ProFX8 290W × 91H × 357Dmm, 3.2kg

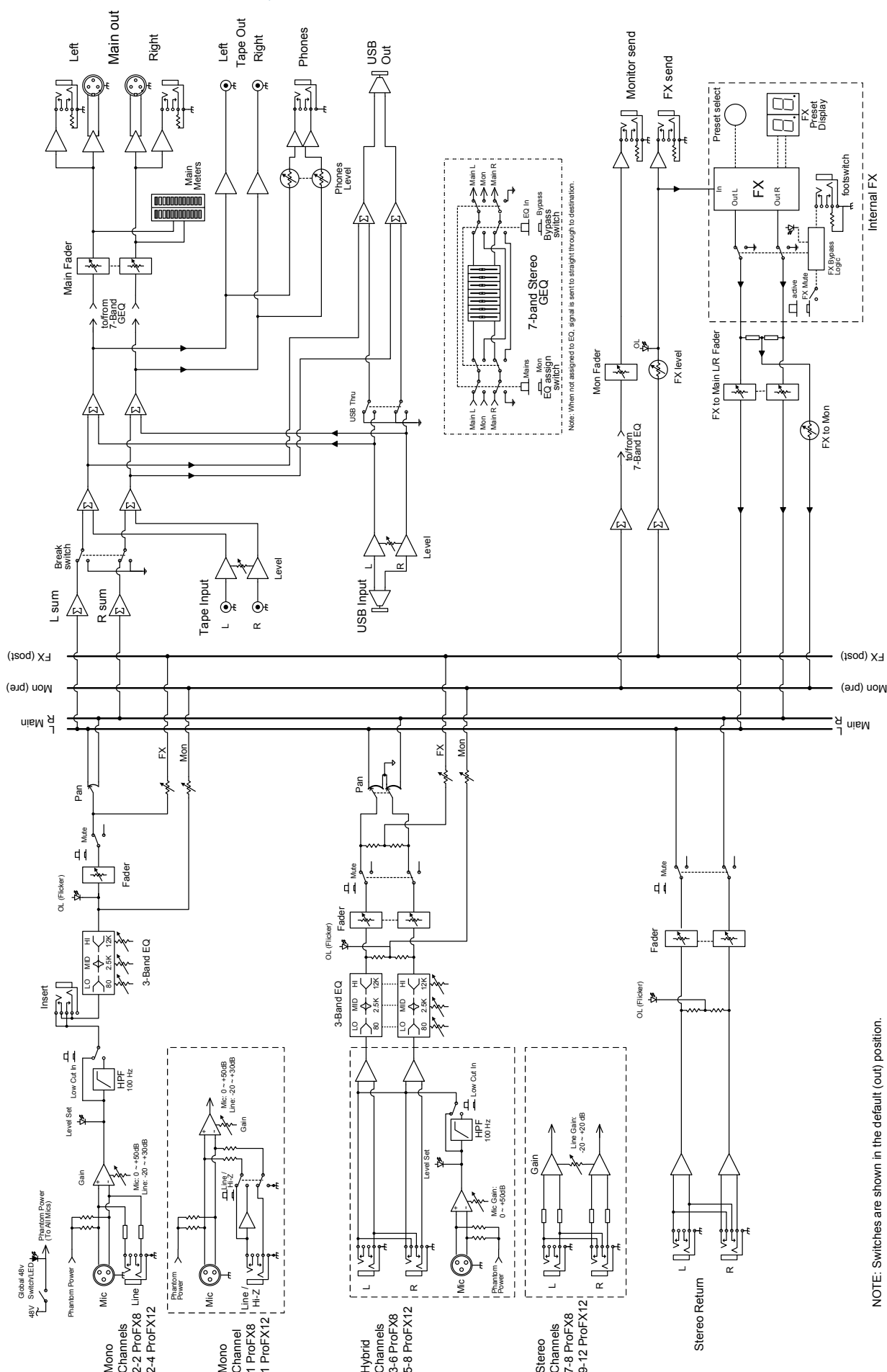
ProFX12 370W × 91H × 357Dmm, 4.1kg

外形寸法、重量

LOUD Technologies Inc.は、新しく改良された材料や部品、製造過程を取り入れることにより、常に製品をより良いものとする努力を続けています。そのためこれらの仕様は予告なしに変更されることがあります。

Mackie、ランニングマンのフィギュアはLOUD Technologies Inc.の商標です。記されたその他すべてのブランド名称は、それぞれの権利保持者の商標または登録商標です。

ブロックダイアグラム



NOTE: Switches are shown in the default (out) position.

MACKIE®
